

第2章 環境影響評価を実施しようとする地域及びその地域の概況

2-1 環境影響評価を実施しようとする地域及び地域特性を把握する範囲

本事業による環境影響評価を実施しようとする地域（以下「調査地域」という。）は、次の点を勘案し、特に広域的に影響が生じると想定される煙突排出ガスによる大気質の影響が想定される地域を十分に包含する範囲として、対象事業実施区域の中心から半径約1.6kmの範囲（該当市：京田辺市及び枚方市の2市）と、関連車両の主要走行ルートのうち相当台数の車両が分散せず沿道環境影響が想定される範囲として国道307号の長尾杉線との分岐箇所までを設定した（図 2-1.1及び図 2-1.2参照）。

[煙突排出ガスによる大気質の影響が想定される地域を十分に包含する範囲]

- ・「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年9月、環境省）において、煙突排出ガスによる影響の調査対象地域として、最大着地濃度出現予想距離の概ね2倍を見込んだ範囲を設定する方法が示されている。
- ・本施設の近傍に位置する東部清掃工場について、環境影響評価手続^{注)}の中で煙突排出ガスの予測を行っている。処理能力は本施設よりも大きい施設であり、現地の気象データに基づく最大着地濃度地点は0.8kmとなっている。
- ・本事業の配慮書手続の中で、煙突複数案での最大着地濃度の検討を行っており、最大着地濃度地点は0.8km未満となった。ただし、予測に用いた気象データは、既存大気測定局のデータであり現地で測定したものではないため、精度を高めるための現地調査を平成30年度に実施した。
- ・以上を踏まえ、方法書の調査地域については、安全側の観点から東部清掃工場での最大着地濃度地点（0.8km）の2倍とし、1.6kmとする。

また、地域特性を把握する範囲は、調査地域及びその周辺地域（以下「調査地域周辺」という。）とする。ただし、市町村単位で公表されている統計資料等を出典とする地域特性については、該当市の全域を範囲として把握した。

注. 「枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」（平成11年11月、枚方市）による。本事業で建設を予定する施設より処理能力が大きく、同程度の煙突高さ（100m）の事例である。



図 2-1.1 調査地域位置図（概略）



凡 例

● 対象事業実施区域

○ 調査地域

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

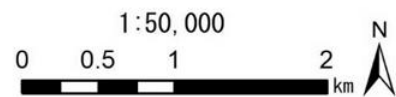


図 2-1.2 調査地域位置図（詳細）

2-2 環境影響評価を実施しようとする地域の概況

2-2-1 自然的状況

(1) 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

1) 一般的な気象の概況

対象事業実施区域の位置する京都南部地域は、日本の気候区分によると瀬戸内気候区に属しており、一般的に温暖な気候である。

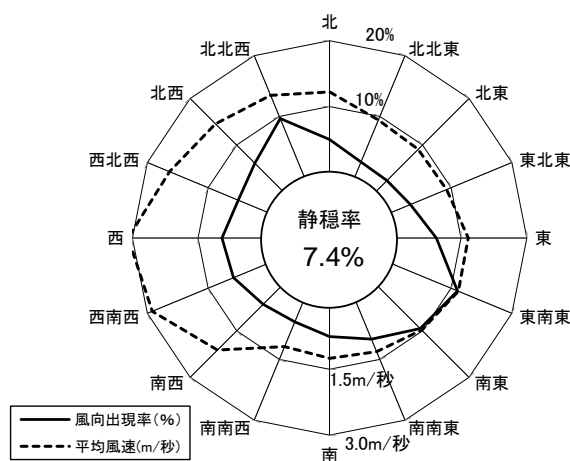
調査地域周辺における気象観測所としては、対象事業実施区域の北約3kmに位置する京田辺地域気象観測所（京田辺市薪西浜）があり、平成26～30年にかけての気象概況を表 2-2.1、風配図を図 2-2.1、気象観測所位置図を図 2-2.2に示す。

これによると、年平均気温は15.7℃、年平均風速は1.8m/秒、年降水量は1,605.2mmであり、最多風向は東南東、北北西である。

表 2-2.1 気象概況

月	気温			降水量						風		
	平均(℃)	最高(℃)	最低(℃)	合計(mm)	1mm以上(日)	10mm以上(日)	30mm以上(日)	50mm以上(日)	70mm以上(日)	100mm以上(日)	平均風速(m/秒)	最多風向(16方位)
1月	4.1	10.5	-0.9	67.5	3.8	1.8	0.2	0.2	0.0	0.0	2.0	西
2月	4.7	11.8	-2.2	49.2	3.4	1.6	0.2	0.0	0.0	0.0	2.0	北北西
3月	8.7	16.6	1.1	115.5	3.4	3.2	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	北北西
4月	14.6	22.2	6.0	124.6	6.6	3.0	1.0	0.0	0.2	0.0	2.0	北北西
5月	19.6	27.4	12.0	113.4	5.8	2.4	0.4	0.4	0.2	0.0	1.8	東南東
6月	22.6	28.8	15.9	201.9	6.4	4.2	0.8	0.6	0.4	0.0	1.7	東南東
7月	27.5	34.3	22.5	189.3	5.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.6	1.7	東南東
8月	27.8	34.7	23.2	248.2	5.0	2.6	0.8	0.4	0.6	0.6	1.7	東南東
9月	22.8	29.4	17.1	200.4	7.8	4.8	1.0	0.4	0.2	0.0	1.4	北北西
10月	17.5	24.2	10.0	140.5	6.0	2.6	0.8	0.2	0.0	0.2	1.5	北北西
11月	11.8	18.6	5.0	81.2	4.6	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0	1.3	東南東
12月	6.5	13.6	-0.3	73.5	4.0	2.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.8	西
年	15.7	34.7	-2.2	1,605.2	5.2	2.9	0.7	0.2	0.1	0.1	1.8	東南東、北北西

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）



注1. 実線は出現頻度、破線は平均風速、円内数字は静穏率を示す。

注2. 平成26年1月～平成30年12月までの集計値



注3. 静穏率：静穏（0.2m/秒以下）の出現率。

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ）

図 2-2.1 風配図



凡例

-  対象事業実施区域
-  気象観測所

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）
 「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

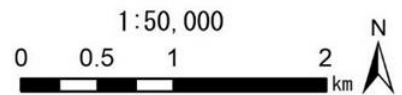


図 2-2.2 気象観測所位置図

① 気温

京田辺地域気象観測所における気温の経年変化を表 2-2.2に示す。平成30年の平均気温は15.9℃となっている。

表 2-2.2 気温の経年変化

区分	年次	平均 (°C)	最高 (°C)	月日	最低 (°C)	月日
京田辺市 (京田辺地域気象観測所)	平成 26 年	15.3	37.9	7/26	-5.3	1/7
	27 年	15.9	38.2	8/2	-4.8	1/2
	28 年	16.3	37.8	8/6	-5.5	1/26
	29 年	15.1	36.6	8/6	-5.1	1/26
	30 年	15.9	38.4	7/19	-6.2	2/6

出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

② 降水量の経年変化

京田辺地域気象観測所における降水量の経年変化を表 2-2.3に示す。年間降水量は、1,387.0～1,750.0mmで推移している。

表 2-2.3 降水量の経年変化

区分	年次	年間総量 (mm)	日最大 (mm)	月日	1時間最大 (mm)	月日
京田辺市 (京田辺地域気象観測所)	平成 26 年	1,387.0	151.5	8/9	38.5	8/9
	27 年	1,750.0	116.5	7/17	35.0	8/29
	28 年	1,711.5	128.5	8/16	65.0	8/16
	29 年	1,579.5	154.5	10/22	40.5	8/23
	30 年	1,598.0	131.0	7/5	30.5	7/5

出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

③ 風向・風速

京田辺地域気象観測所における風向・風速の経年変化を表 2-2.4に示す。

表 2-2.4 風向・風速の経年変化

区分	年次	平均 (m/秒)	最大 (m/秒)	月日 (風向)
京田辺市 (京田辺地域気象観測所)	平成 26 年	1.8	10.4	6/5 (東南東)、8/10 (東南東)
	27 年	1.7	11.2	8/25 (南東)
	28 年	1.7	8.5	1/20 (西)、2/9 (西)、4/17 (西南西)
	29 年	1.7	11.4	9/17 (東南東)
	30 年	1.8	19.2	9/4 (南南東)

注. 月日 (風向) は、最大風速を記録した月日とその風向を示す。

出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

2) 大気質に係る環境の状況

京都府並びに枚方市では大気汚染の状況を把握するため、監視網となる大気測定局を設置し、大気汚染物質の濃度等を測定している。調査地域周辺では、一般環境大気測定局として田辺局(京田辺市田辺明田)及び王仁公園局(枚方市王仁公園)が設置されている。また、「第二京阪道路(大阪府域)環境監視の在り方に関する検討会」が設置・監視を行っている第二京阪道路環境監視局として長尾局(枚方市長尾台)及び津田局(枚方市津田東町)で測定が行われている。また、最も近隣のダイオキシン類常時監視地点として、王仁公園局で平成26年度まで隔年で測定が行われていた。なお、測定項目のうち、炭化水素は環境基準がないため、ここでは整理していない。調査地域周辺の大気測定局における測定項目を表 2-2.5、大気環境測定位置を図 2-2.3に示す。

表 2-2.5 大気測定局における測定項目

番号	区分	市	名称	測定項目								
				二酸化硫黄	窒素酸化物		光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	炭化水素		微小粒子状物質	ダイオキシン類
					二酸化窒素	一酸化窒素			非メタン	メタン		
SO ₂	NO ₂	NO	O _x	SPM	NMHC	CH ₄	PM2.5					
1	一般環境	京田辺市	田辺局	—	○	○	○	○	○	○	○	—
2	大気測定局	枚方市	王仁公園局	○	○	○	○	○	—	—	○	○
3	第二京阪道路	枚方市	長尾局	—	○	○	—	○	—	—	—	—
4	環境監視局		津田局	—	○	○	—	○	—	—	—	—

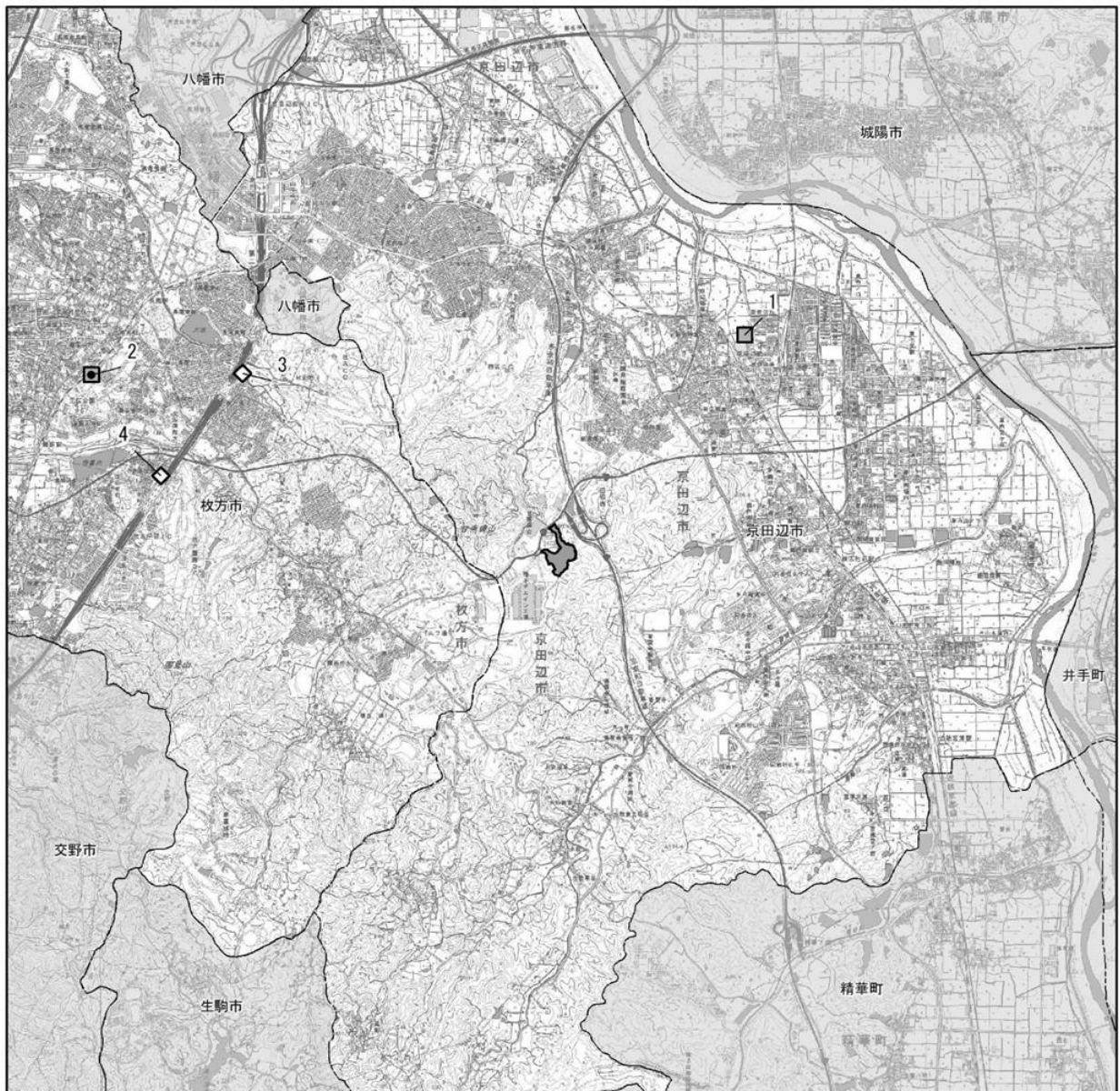
注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. “—”は、測定が実施されていない項目を示す。





注3. 王仁公園局では平成 27 年度以降、大気中のダイオキシン類の測定を実施していない。

出典：「京都府大気常時監視情報」(京都府ホームページ)

：「令和元年(2019年)版 環境データ集」(令和元年、枚方市)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  一般環境大気測定局
-  ダイオキシン類常時監視地点
-  第二京阪道路環境監視局

出典：「京都府大気常時監視情報」（京都府ホームページ）
 ：「令和元年（2019年）版 環境データ集」（令和元年、枚方市）
 「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

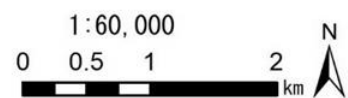


図 2-2.3 大気環境測定位置図

① 二酸化硫黄測定結果

二酸化硫黄測定結果を表 2-2.6に示す。王仁公園局における二酸化硫黄の年平均値の状況は、横ばいで推移している。また、全ての年度で環境基準を満足している。

表 2-2.6 二酸化硫黄測定結果

番号	測定局	年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
						時間数	割合	日数	割合				
						時間	%	日	%				
2	王仁公園	平成28年度	363	8,631	0.000	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	○	0
		平成29年度	364	8,636	0.000	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	○	0
		平成30年度	362	8,625	0.000	0	0.0	0	0.0	0.014	0.002	○	0

注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. 長期的評価における環境基準の達成：「年間を通じて測定した平均値の高い方から、2%の範囲にあるものを除外した値（以下「2%除外値」という。）が0.04ppm以下であり、かつ、日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しないこと。」をいう。

注3. 短期的評価における環境基準の達成：「1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。」をいう。

出典：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

② 窒素酸化物測定結果

二酸化窒素測定結果を表 2-2.7に、窒素酸化物測定結果を表 2-2.8に示す。二酸化窒素の年平均値の状況は、田辺局ではほぼ横ばいを示し、他の3局ではほぼ横ばい又は減少傾向を示している。また、いずれの測定局でも全ての年度で環境基準を満足している。

表 2-2.7 二酸化窒素測定結果

番号	測定局	年度	有効測定日数		年平均値 ppm	1時間 値の最 高値 ppm	1時間値が 0.2ppmを超え た時間数とそ の割合		1時間値が 0.1ppm以上 0.2ppm以下の 時間数とそ の割合		日平均値が 0.006ppmを超 えた日数とそ の割合		日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下 の日数とそ の割合		年平均 値の年 間98% 値 ppm	98%値評価 による 日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 日
			日	時間			時間	%	時間	%	日	%	日	%		
1	田 辺	平成27年度	362	8,678	0.011	0.053	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.022	0
		平成28年度	363	8,674	0.010	0.052	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.022	0
		平成29年度	363	8,667	0.011	0.047	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.023	0
2	王 仁 公 園	平成28年度	346	8,292	0.010	0.053	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.026	0
		平成29年度	363	8,622	0.012	0.055	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.028	0
		平成30年度	362	8,614	0.010	0.048	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.026	0
3	長 尾	平成28年度	306	7,557	0.015	0.070	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.028	0
		平成29年度	362	8,622	0.015	0.065	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.029	0
		平成30年度	362	8,618	0.014	0.066	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.028	0
4	津 田	平成28年度	362	8,639	0.017	0.057	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.032	0
		平成29年度	356	8,503	0.016	0.061	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.031	0
		平成30年度	362	8,631	0.015	0.054	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.031	0

注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. 環境基準の達成：「年間を通じて測定した日平均値の低い方から、高い方に順に並べた時、低い方から数えて98%目の日数に該当する平均値（以下「年間98%値」という。）が0.06ppm以下であること。」をいう。

出典：「平成28～30年度版 京都府環境白書」（平成29～31年、京都府）

：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

表 2-2.8 窒素酸化物測定結果

番号	測定局	年度	有効測定日数	測定時間	一酸化窒素			窒素酸化物 (NO+NO ₂)			
					年平均値	1時間値の最高値	日平均値の年間98%値	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の年間98%値	年平均値 (NO ₂ /NO+NO ₂)
					ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	%
1	田辺	平成27年度	362	8,678	0.002	0.067	0.010	0.013	0.106	0.030	82.3
		平成28年度	363	8,674	0.002	0.059	0.011	0.013	0.101	0.033	81.2
		平成29年度	363	8,667	0.002	0.080	0.011	0.013	0.104	0.035	82.5
2	王仁公園	平成28年度	346	8,292	0.002	0.073	0.011	0.012	0.126	0.038	86.5
		平成29年度	363	8,622	0.002	0.077	0.012	0.014	0.116	0.039	85.7
		平成30年度	362	8,614	0.002	0.093	0.011	0.012	0.137	0.034	86.9
3	長尾	平成28年度	306	7,557	0.007	0.109	0.026	0.022	0.156	—	68.1
		平成29年度	362	8,622	0.005	0.088	0.017	0.021	0.139	—	74.8
		平成30年度	362	8,618	0.005	0.106	0.016	0.019	0.152	—	74.3
4	津田	平成28年度	362	8,639	0.007	0.087	0.027	0.024	0.134	—	69.3
		平成29年度	356	8,503	0.007	0.110	0.023	0.023	0.154	—	71.2
		平成30年度	362	8,631	0.006	0.105	0.021	0.021	0.146	—	71.1

注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. “—” は出典資料に記載がないことを示す。

出典：「平成28～30年度版 京都府環境白書」（平成29～31年、京都府）

：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

：「平成28（2016）～30（2018）年度大気汚染常時測定局測定結果」（平成29～令和元年、大阪府）

③ 光化学オキシダント測定結果

光化学オキシダント測定結果を表 2-2.9に示す。年平均値（昼間）は、田辺局0.035ppm、王仁公園局0.033～0.034ppmで推移している。両測定局とも、環境基準は満足していない。なお、京田辺市の属する綴喜地域（八幡市、京田辺市、井手町）における平成27～29年度の光化学スモッグ注意報発令回数は合計3回で、枚方市の属する北大阪地域（池田市、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市、島本町、豊能町、能勢町）における平成28～30年度の光化学スモッグ注意報発令回数は5回であった。

表 2-2.9 光化学オキシダント測定結果

番号	測定局	年度	昼間測定		昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数			昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数			昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値
			日数	時間		日	時間数とその割合		日数とその割合	時間			
			日	時間	時間		%	日			%	ppm	ppm
1	田辺	平成27年度	363	5,349	0.035	101	566	10.6	3	0.8	10	0.132	0.053
		平成28年度	365	5,410	0.035	98	549	10.1	0	0.0	0	0.110	0.052
		平成29年度	365	5,412	0.035	99	546	10.1	2	0.5	2	0.122	0.052
2	王仁公園	平成28年度	363	5,368	0.034	85	470	8.8	0	0.0	0	0.109	0.050
		平成29年度	365	5,412	0.034	85	431	8.0	0	0.0	0	0.113	0.050
		平成30年度	364	5,379	0.033	68	364	6.8	0	0.0	0	0.112	0.048

注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. 環境基準の達成：「昼間（5時～20時）の時間帯において、1時間値が0.06ppm以下であること。」をいう。

出典：「平成28～30年度版 京都府環境白書」（平成29～31年、京都府）

：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

④ 浮遊粒子状物質測定結果

浮遊粒子状物質測定結果を表 2-2.10に示す。すべての測定局の年平均値はほぼ横ばいで推移している。また、いずれの測定局でも環境基準を満足している。

表 2-2.10 浮遊粒子状物質測定結果

番号	測定局	年度	有効測定日数	測定時間		年平均値		1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数
				日	時間	mg/m ³	時間	%	日	%	mg/m ³				
1	田辺	平成27年度	360	8,686	0.020	0	0.0	0	0.0	0.082	0.044	○	0		
		平成28年度	361	8,670	0.016	0	0.0	0	0.0	0.158	0.032	○	0		
		平成29年度	363	8,710	0.017	0	0.0	0	0.0	0.072	0.037	○	0		
2	王仁公園	平成28年度	360	8,692	0.016	0	0.0	0	0.0	0.076	0.032	○	0		
		平成29年度	351	8,464	0.015	0	0.0	0	0.0	0.078	0.037	○	0		
		平成30年度	357	8,637	0.014	0	0.0	0	0.0	0.095	0.036	○	0		
3	長尾	平成28年度	337	8,366	0.016	0	0.0	0	0.0	0.089	0.033	○	0		
		平成29年度	363	8,700	0.018	0	0.0	0	0.0	0.147	0.038	○	0		
		平成30年度	358	8,606	0.016	0	0.0	0	0.0	0.078	0.038	○	0		
4	津田	平成28年度	358	8,628	0.018	0	0.0	0	0.0	0.077	0.036	○	0		
		平成29年度	363	8,699	0.018	0	0.0	0	0.0	0.108	0.040	○	0		
		平成30年度	340	8,166	0.016	0	0.0	0	0.0	0.103	0.032	○	0		

注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。

注2. 長期的評価における環境基準の達成：「日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下であり、かつ、日平均値が0.1mg/m³を超えた日が2日以上連続しないこと。」をいう。

注3. 短期的評価における環境基準の達成：「1時間値が0.20mg/m³以下であり、かつ、日平均値が0.1mg/m³以下であること。」をいう。

出典：「平成28～30年度版 京都府環境白書」（平成29～31年、京都府）

：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

⑤ 微小粒子状物質

微小粒子状物質測定結果を表 2-2.11に示す。田辺局では、平成27～29年度においては環境基準を満足した。王仁公園局での微小粒子状物質の測定は、平成26年3月より開始されており、平成28～30年度は環境基準を満足していた。

表 2-2.11 微小粒子状物質の測定結果

番号	測定局	年度	有効測定日数	年平均値	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の年間98%値
			日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$
1	田辺	平成27年度	361	13.6	7	1.9	66	35.0
		平成28年度	360	12.2	0	0.0	184	27.3
		平成29年度	363	12.6	1	0.3	63	28.4
2	王仁公園	平成28年度	347	10.6	0	0.0	—	25.3
		平成29年度	345	12.0	1	0.3	—	28.8
		平成30年度	362	11.0	0	0.0	—	25.0

- 注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。
 注2. 環境基準の達成：「長期基準として、年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ短期基準として日平均値の年間98%値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」をいう。
 注3. “—” は出典資料に記載がないことを示す。
 出典：「平成28～30年度版 京都府環境白書」（平成29～31年、京都府）
 ：「平成29年（2017年）～令和元年（2019年）版 環境データ集」（平成29～令和元年、枚方市）

⑥ ダイオキシン類

大気環境中のダイオキシン類測定結果を表 2-2.12に示す。王仁公園局では、平成24年度と平成26年度のみ測定を実施している。

表 2-2.12 大気環境中のダイオキシン類測定結果（枚方市）

番号	測定局	年度	測定値 ($\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$)				
			春	夏	秋	冬	年平均
2	王仁公園	平成24年度	0.015	0.012	0.015	0.036	0.020
		平成25年度	—	—	—	—	—
		平成26年度	0.011	0.015	0.010	0.010	0.012
		平成27年度	—	—	—	—	—
		平成28年度	—	—	—	—	—
		平成29年度	—	—	—	—	—

- 注1. 番号は、図 2-2.3 に対応している。
 注2. “—” は測定が行われなかったことを示す。
 注3. 環境基準の達成：「年平均値 $0.6 \text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下であること。」をいう。
 出典：「平成25年（2013年）～30年（2018年）版 環境データ集」（平成25～30年、枚方市）

3) 騒音に係る環境の状況

① 自動車騒音

調査地域周辺では、京田辺市15地点、枚方市で5地点において自動車騒音測定を実施している。各地点における自動車騒音測定結果を表 2-2. 13に、調査地域周辺における自動車騒音及び環境騒音測定位置を図 2-2. 4に示す。

過去4年度の調査においては、京田辺市及び枚方市の7地点で環境基準を超過したが、全ての地点で要請限度値は下回っている。なお、調査地域周辺では主要幹線道路を対象として道路に面する地域に立地する住居ごとの環境基準達成率（面的評価）も実施しており、参考として表 2-2. 14に示す。

表 2-2.13 自動車騒音測定結果

年度	市	地域 類型	近接 空間 特例	番号	路線名	測定場所	騒音測定結果 (dB)					
							等価騒音 レベル		騒音 環境基準		要請限度値	
							昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
平成 26 年度	京田 辺市	A	無	1	一般国道1号 (京都南道路)	京田辺市山手西	56	52	60	55	70	65
		A	無	2	(併) 一般国道1号 (第二京阪道路)	京田辺市山手西	56	52	60	55	70	65
		B	有	3	一般国道307号	京田辺市田辺西川原	73	69	70	65	75	70
		B	有	4	府道八幡木津線	京田辺市薪高木	64	58	70	65	75	70
		A	有	5	府道八幡木津線	京田辺市興戸地蔵谷	68	61	70	65	75	70
		B	無	6	市道新田辺駅前線	京田辺市田辺明田	66	60	65	60	75	70
		A	無	7	市道山手幹線	京田辺市大住ヶ丘四丁目	68	62	60	55	70	65
		B	有	8	府道八幡木津線	京田辺市興戸犬伏	69	66	70	65	75	70
	枚方 市	A	有	9	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市長尾台4-11	49	47	70	65	75	70
		A	有	10	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市津田東町3-22	49	46	70	65	75	70
		A	有	11	一般国道307号(旧道)	枚方市尊延寺6-23	70	66	70	65	75	70
平成 27 年度	辺京 市田	B	有	12	一般国道24号(京奈道路)	京田辺市薪畠	61	54	70	65	75	70
		-	無	13	一般国道24号(京奈道路)	京田辺市普賢寺上大門	52	45	65	60	75	70
	枚方 市	A	有	14	府道枚方山城線	枚方市宗谷1-15	70	64	70	65	75	70
		A	有	9	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市長尾台4-11	50	48	70	65	75	70
		A	有	10	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市津田東町3-22	49	46	70	65	75	70
平成 28 年度	辺京 市田	B	有	15	府道八幡木津線	京田辺市薪西沢	67	62	70	65	75	70
		B	有	16	府道生駒井手線	京田辺市三山木上谷浦	66	59	70	65	75	70
	枚方 市	A	有	9	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市長尾台4-11	52	47	70	65	75	70
		A	有	17	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市津田東町3-21	50	46	70	65	75	70
平成 29 年度	京田 辺市	-	有	18	生駒井手線	京田辺市三山木垣内	68	62	70	65	75	70
		-	有	19	一般国道307号	京田辺市興戸十曾	70	67	70	65	75	70
		B	有	20	府道八幡木津線	京田辺市興戸塚ノ本	71	67	70	65	75	70
	枚方 市	A	有	9	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市長尾台4-11	51	48	70	65	75	70
		A	有	10	一般国道1号 (第二京阪道路)	枚方市津田東町3-22	53	48	70	65	75	70

注1. 番号は、図 2-2.4 に対応している。

注2. dBとは、計量法(平成4年法律第51号)に定める音圧レベルの計量単位をいう。

注3. 測定日は以下のとおりである。

京田辺市：平成26年度は平成26年11月6日～12月9日、平成27年度は平成27年12月1日～2日、平成28年度は平成28年12月15日～16日、平成29年度は平成30年2月8日～9日。

枚方市：平成26年度は、国道1号(第二京阪道路)では平成26年11月5日～6日、国道307号は平成26年11月19日～20日。平成27年度は、府道枚方山城線では平成27年11月11日～12日、国道1号(第二京阪道路)は平成27年11月4日～5日、平成28年度は平成28年11月9日～10日、平成29年度は平成29年11月7日～8日。

注4. 時間区分は、昼間(6時～22時)、夜間(22時～翌日6時)とする。

注5. 地域類型は以下のとおりである。

A：第1・2種低層住居専用地域、第1・2種中高層住居専用地域

B：第1・2種住居地域、準住居地域

C：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

注6. 近接空間特例：幹線交通を担う道路近接空間(高速道路、国道、府道及び4車線以上の市町村道から15m(2車線以下)又は20m(2車線超)の範囲)における基準値の適用の有無を表す。

注7. ■グレー網掛けは基準値を超過したことを表す。

注8. 京田辺市で環境基準の適応が無い地点はB類型として評価、要請限度の適用がない地点については、b区域として評価した。

出典：「平成27～30年度版 京都府環境白書」(平成28～31年、京都府)

：「平成25～29年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」(平成27～31年、大阪府環境農林水産部)

表 2-2.14(1) 自動車騒音面的評価結果（平成 29 年度）（京田辺市）

市	路線名	評価区間の起点	評価区間の終点	面的評価の結果				
				評価 住居数 (戸)	環境基準達成 住居数 (戸)		環境基準 達成率 (%)	
					昼間	夜間	昼間	夜間
京田 辺市	一般国道 307 号	京田辺市草内大東	京田辺市草内大切	158	158	158	100	100
		京田辺市草内大切	京田辺市興戸宮ヶ辻	2	2	2	100	100
		京田辺市興戸八木屋	京田辺市興戸犬伏	24	23	23	96	96
	府道八幡木津線	京田辺市三山木垣ノ内	京田辺市三山木高飛	172	164	164	95	95
		京田辺市興戸久保	京田辺市三山木垣ノ内	34	34	34	100	100
		京田辺市興戸東垣内	京田辺市興戸久保	41	29	29	71	71
		京田辺市興戸若宮	京田辺市興戸東垣内	95	72	72	76	76
		京田辺市興戸小モ詰	京田辺市興戸若宮	10	6	6	60	60
		京田辺市興戸小モ詰	京田辺市興戸小モ詰	13	13	13	100	100
		京田辺市興戸犬伏	京田辺市興戸小モ詰	35	33	33	94	94
	府道生駒井手線	京田辺市興戸犬伏	京田辺市興戸犬伏	4	4	4	100	100
		京田辺市三山木田中	京田辺市三山木田中	60	60	60	100	100
		京田辺市三山木田中	京田辺市三山木外島	164	164	164	100	100

注. 時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～翌日6時）とする。

出典：「平成 30 年度版 京都府環境白書」（平成 31 年、京都府）

表 2-2.14(2) 自動車騒音面的評価結果（平成 29 年度）（枚方市）

市	路線名	評価区間の起点	評価区間の終点	面的評価の結果				
				評価対象 住居等 (戸)	昼・夜間 とも基 準値以 下 (%)	昼間の み基準 値以下 (%)	夜間の み基準 値以下 (%)	昼・夜間 とも基 準値超 過 (%)
枚方 市	一般国道 1 号 (第二京阪道路)	枚方市長尾東町 3-34	枚方市杉	260	100.0	0.0	0.0	0.0
		枚方市津田東町	枚方市津田東町	83	98.8	0.0	0.0	1.2
		枚方市津田東町	枚方市津田南町	83	100.0	0.0	0.0	0.0
		枚方市津田南町	枚方市津田南町	23	100.0	0.0	0.0	0.0
	国道 307 号	枚方市杉 1-6	枚方市津田東町	8	100.0	0.0	0.0	0.0
		枚方市津田東町	枚方市池之宮 1-2	934	98.9	0.3	0.0	0.7
		枚方市大字尊延寺	枚方市杉 1-6	3	100.0	0.0	0.0	0.0
	府道枚方高槻線	枚方市杉 3-1	枚方市牧野下島町 1	2,174	100.0	0.0	0.0	0.0
	府道枚方山城線	枚方市大字穂谷	枚方市大字尊延寺	139	96.4	0.0	1.4	2.2
	府道杉田口禁野線	枚方市長尾元町 5-10	枚方市出屋敷元町 1-4	678	98.8	0.3	0.3	0.6
	府道長尾八幡線	枚方市長尾荒阪	枚方市長尾家具町	628	100.0	0.0	0.0	0.0

注. 時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～翌日6時）とする。

出典：「平成 29 年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」（平成 31 年、大阪府環境農林水産部）

② 環境騒音

調査地域周辺では、枚方市の3地点で環境騒音測定を行っている。環境騒音測定結果を表2-2.15に、調査地域周辺における環境騒音測定位置を図2-2.4に示す。3地点とも、昼間、夜間ともに環境基準を下回っている。

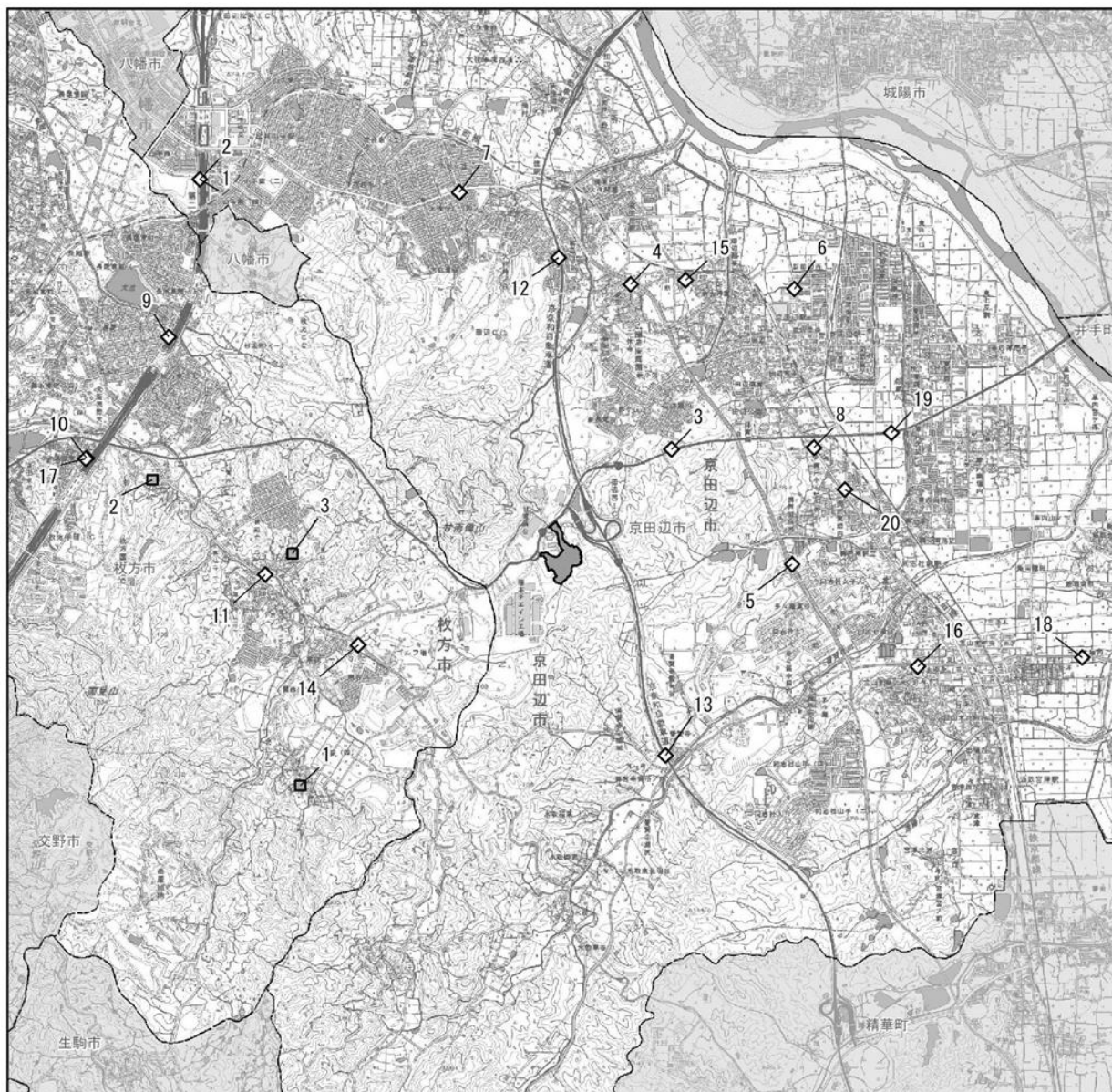
表 2-2.15 環境騒音測定結果

市	地域 類型	番号	測定 地点	年度	等価騒音 レベル (dB)		基準値		環境基準との比較		支配的音源		測定期間 上段：開始 下段：終了
					昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
枚 方 市	B	1	穂谷3	平成 25年度	48	32	55	45	○	○	特殊音、 自然音	自然音	2013/11/7 2013/11/7
			穂谷3	平成 28年度	44	37	55	45	○	○	自然音、 不特定音、 家庭音	自然音、 特殊音	2016/12/1 2016/12/1
	B	2	杉1	平成 26年度	42	38	55	45	○	○	自動車騒音、 自然音	自動車騒音、 自然音	2014/10/15 2014/10/15
			杉1	平成 29年度	42	39	55	45	○	○	自然音、 家庭音、 自動車騒音	自動車騒音、 自動車以外の 道路音、 家庭音	2017/11/16 2017/11/16
	A	3	尊延寺4	平成 27年度	41	37	50	40	○	○	自動車騒音、 自然音	自動車騒音、 自然音	2015/10/13 2015/10/13




注1. 番号は、図2-2.4に対応している。

注2. 時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～翌日6時）とする。

出典：「平成25～29年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」（平成27～31年、大阪府環境農林水産部）



凡 例

-  対象事業実施区域
-  自動車騒音測定位置
-  環境騒音測定位置

出典：「平成 27～30 年度版 京都府環境白書」（平成 28～31 年、京都府）
 ：「平成 25～29 年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」（平成 27～31 年、大阪府環境農林水産部）
 ：「国立研究開発法人国立環境研究所 自動車騒音の常時監視結果 環境 GIS」（国立研究開発法人国立環境研究所）

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

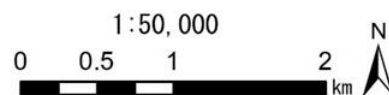


図 2-2.4 自動車騒音及び環境騒音測定位置図

4) 振動に係る環境の状況

調査地域周辺において、5地点で道路交通振動測定を実施している。道路交通振動測定結果を表 2-2.16に、調査地域周辺の道路交通振動測定位置を図 2-2.5に示す。測定が実施された全ての地点で要請限度を下回っている。

表 2-2.16 道路交通振動測定結果（平成 29 年度）

市	番号	路線名	測定地点	振動レベル[L ₁₀] (dB)		要請限度値 (dB)	
				昼間	夜間	昼間	夜間
京田辺市	1	市道新田辺駅前線	京田辺市田辺明田	42	35	65	60
	2	市道山手幹線	京田辺市大住ヶ丘4丁目	44	36		
	3	府道八幡木津線	京田辺市興戸犬伏	43	40		
枚方市	4	一般国道1号(第二京阪道路)	枚方市長尾台4-11	42	—		
	5	一般国道1号(第二京阪道路)	枚方市津田東町3-22	33	—		

注1. 番号は、図 2-2.5 に対応している。

注2. 時間区分は、以下のとおりとする。

京田辺市：昼間（8時～19時）、夜間（19時～翌日8時）

枚方市：昼間（6時～21時）、夜間（21時～翌日6時）

注3. “—” は測定が実施されていないことを示す。

出典：「平成30年度版 京都府環境白書」（平成31年、京都府）

：「平成29年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」（平成31年、大阪府環境農林水産部）

5) 悪臭に係る環境の状況

調査地域周辺では、悪臭に係る測定は実施されていない。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 道路交通振動測定位置

出典：「平成30年度版 京都府環境白書」（平成31年、京都府）
 ：「平成29年度環境騒音モニタリング調査結果報告書」（平成31年、大阪府環境農林水産部）
 「電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成」

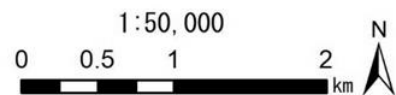


図 2-2.5 道路交通振動測定位置図

(2) 水象、水質、水底の底質その他水に係る環境の状況

1) 一般的な水象の状況

調査地域周辺における河川・湖沼等の分布を図 2-2.6に示す。

調査地域周辺を流れる主な河川は、淀川水系の木津川である。木津川の水源は三重県と奈良県の県境を南北に走る布引山地に位置し、山城盆地を流れ、京都府・大阪府境付近で宇治川、桂川とともに淀川に合流する。そのほか調査地域周辺には、防賀川や普賢寺川など木津川の支流が流れている。湖沼の代表的なものは枚方市に位置する大池（枚方市長尾東町）で、これ以外にも調査地域周辺には大小のため池等が分布している。また、木津川沿いの平坦地には都市下水路が配置されている。

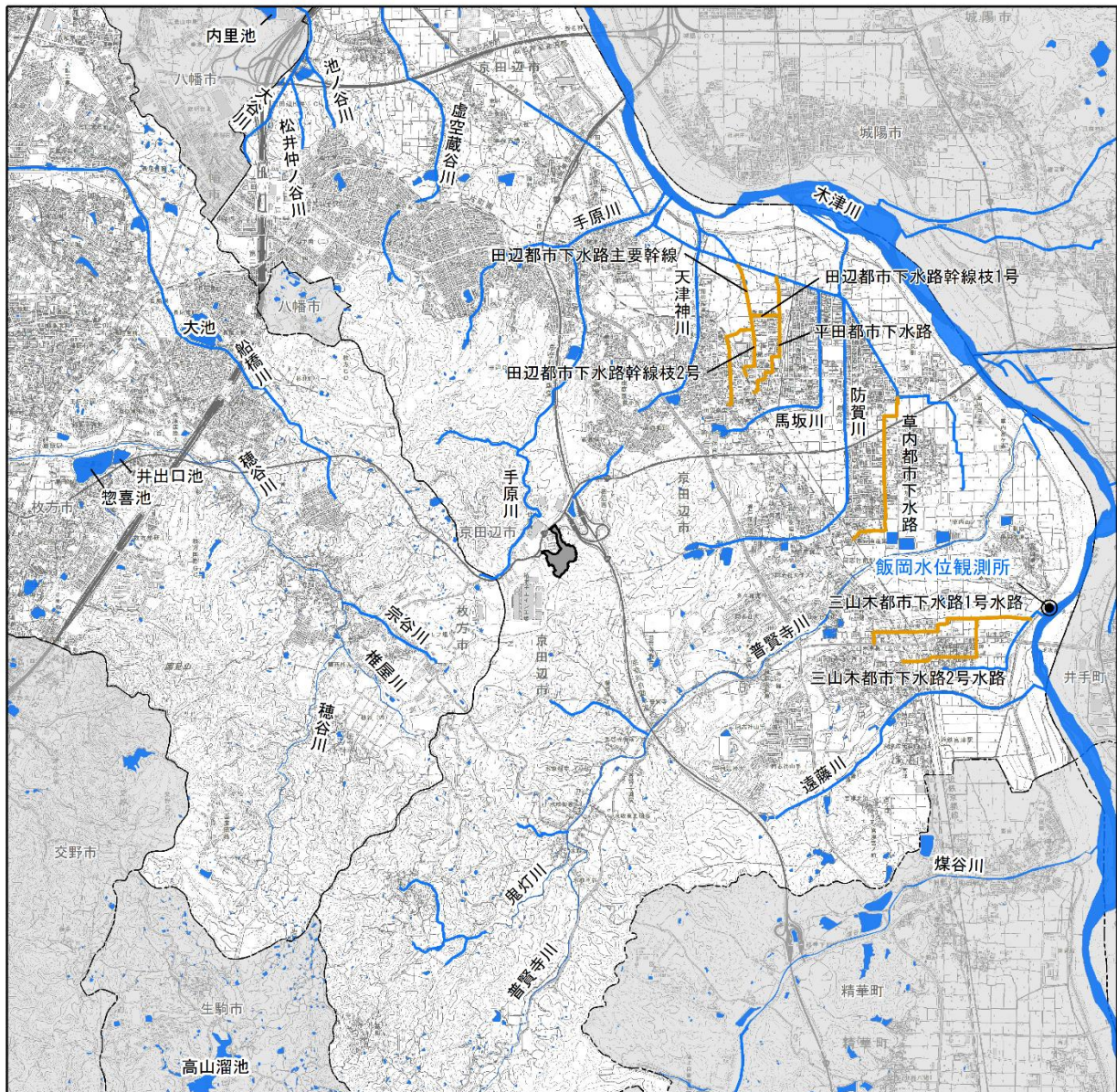
調査地域に最も近い水位観測所は、木津川の飯岡^{いのおか}水位観測所（京田辺市飯岡久保田）である。飯岡水位観測所における河川流量を表 2-2.17に示す。最も流量が多いのは10月、最も少ないのは3月である。

表 2-2.17 河川流量

月	流量 (m ³ /秒)	月	流量 (m ³ /秒)
1月	25.57	7月	31.28
2月	30.46	8月	77.94
3月	23.75	9月	53.81
4月	37.71	10月	283.95
5月	33.24	11月	45.88
6月	30.97	12月	24.56
平均			58.26

注. 観測年：平成 29 年

出典：「水文水質データベース」（国土交通省ホームページ）



凡 例

- 対象事業実施区域
- 河川・湖沼・池
- 都市下水路
- 水位観測所

出典：「京田辺市都市計画図」（平成30年11月、京田辺市）
 ：「京都府山城北土木事務所管内図」（平成30年、山城北土木事務所）
 ：「枚方土木事務所管内図」（平成29年4月、枚方土木事務所）
 ：「電子地形図」（国土地理院）
 ：「水文水質データベース」（国土交通省ホームページ）
 「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

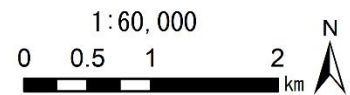


図 2-2.6 河川・湖沼等位置図

2) 水質に係る環境の状況

調査地域周辺では、防賀川や普賢寺川、手原川、穂谷川など、京田辺市内では20地点、枚方市では2地点において水質調査が実施されている。調査地域周辺の水質調査概要を表 2-2.18に、水質調査位置を図 2-2.7に示す。

各地点の水質調査測定結果を表 2-2.19～表 2-2.21に示す。

なお、京田辺市の対象河川には生活環境の保全に係る類型指定は行われていないが、枚方市の対象河川においては、船橋川及び穂谷川の全域がB類型に指定されている。

京田辺市における健康項目の測定結果では、いずれも環境基準を満足している。

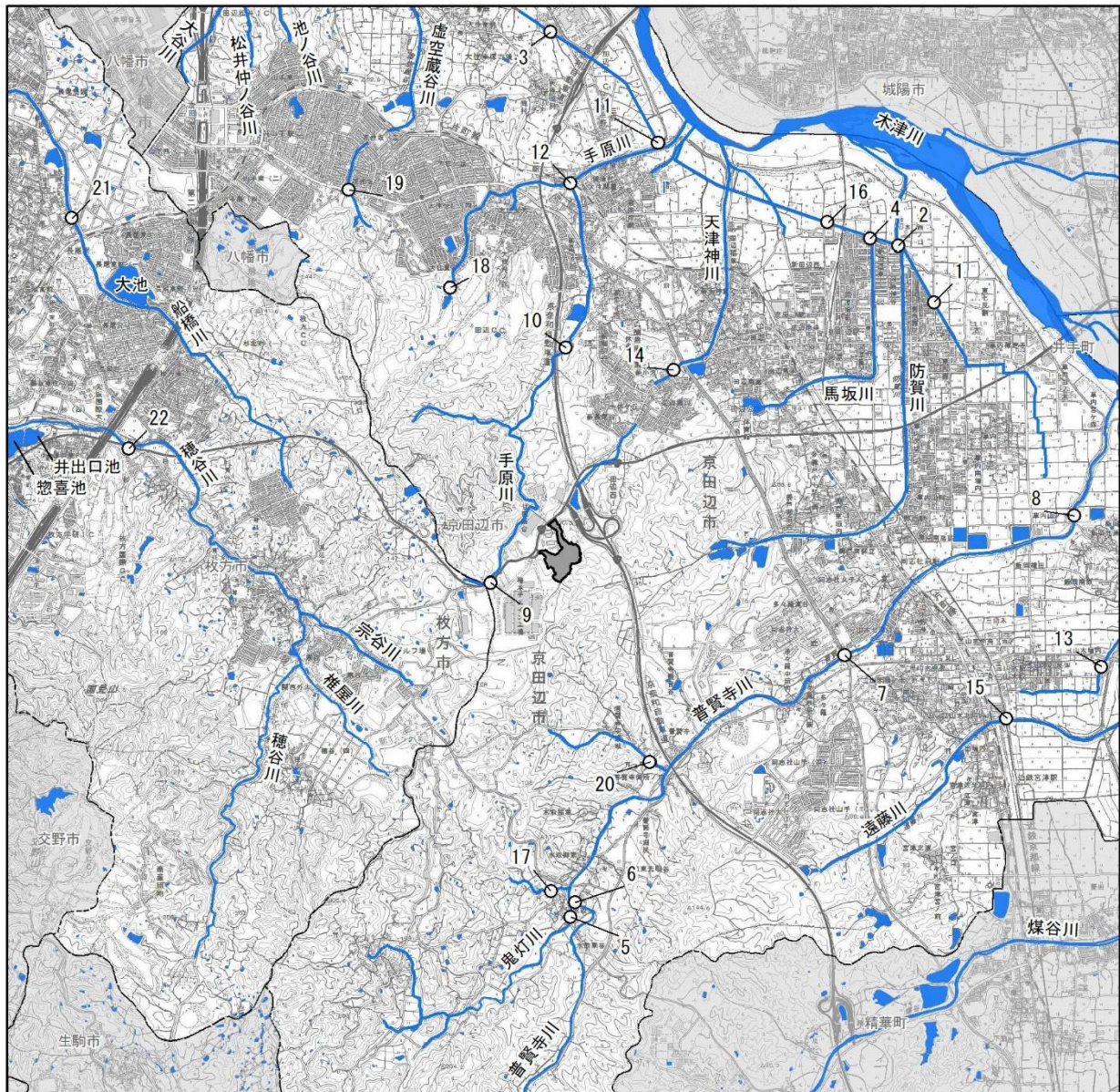
表 2-2.18 水質調査概要

番号	市	河川等	測定地点	健康項目	生活環境項目	特殊項目	その他
1	京田辺市	幹線排水路	神屋橋		○ ^{注3)}		
2		防賀川	新神矢橋	○ ^{注2)}	○	○	○
3		防賀川	中島橋		○ ^{注3)}		
4		馬坂川	浜新田橋		○ ^{注3)}		
5		鬼灯川	普賢寺小学校付近	○ ^{注2)}	○	○	○
6		普賢寺川	普賢寺小学校付近		○ ^{注3)}		
7		普賢寺川	学園橋		○ ^{注3)}		
8		普賢寺川	木津川合流部手前	○ ^{注2)}	○	○	○
9		手原川	枚方市境界付近	○	○	○	○
10		手原川	薪溜池橋	○ ^{注2)}	○	○	○
11		手原川	木津川合流手前	○ ^{注2)}	○	○	○
12		竜王谷川	野上橋	○ ^{注2)}	○	○	○
13		直田川	古屋敷橋	○ ^{注2)}	○	○	○
14		天津神川	一休ヶ丘バス停付近	○ ^{注2)}	○	○	○
15		遠藤川	下切山橋	○ ^{注2)}	○	○	○
16		田辺用水路	草屋橋		○ ^{注3)}		
17		鑄川	新水取橋付近	○ ^{注2)}	○	○	○
18		責谷川	責谷川上流	○ ^{注2)}	○	○	○
19		虚空蔵谷川	虚空蔵谷橋	○ ^{注2)}	○	○	○
20		宇頭城川	普賢寺公民館付近	○ ^{注2)}	○	○	○
21	枚方市	船橋川	新宇治橋		○		
22		穂谷川	穂谷川新橋		○		




注1. 番号は、図 2-2.7に対応している。

注2. 健康項目（カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀及びPCB）のうちPCBは、測定が実施されていない。

注3. 生活環境項目（水素イオン濃度、浮遊物質、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、大腸菌群数、全窒素、全りん、全亜鉛及びノルマルヘキサン抽出物質）のうち、全亜鉛は、測定が実施されていない。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  水質測定地点
-  河川・湖沼・池

出典：「市内河川の水質検査結果について（平成 30 年度京田辺市河川水質検査結果一覧表）」
 （京田辺市ホームページ）

：「令和元年（2019）版 環境データ集」（令和元年、枚方市）

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

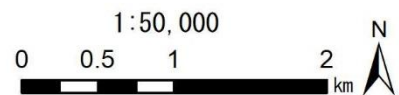


図 2-2.7 水質調査位置図

表 2-2.19 水質調査測定結果（京田辺市：健康項目）

番号	河川等	測定地点名	カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	PCB
			mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
1	幹線排水路	神屋橋	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
2	防賀川	新神矢橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
3	防賀川	中島橋	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
4	馬坂川	浜新田橋	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
5	鬼灯川	普賢寺 小学校付近	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
6	普賢寺川	普賢寺 小学校付近	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
7	普賢寺川	学園橋	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
8	普賢寺川	木津川 合流点手前	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
9	手原川	枚方市 境界付近	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	<0.0005
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	<0.0005
10	手原川	薪溜池橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
11	手原川	木津川 合流手前	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
12	竜王谷川	野上橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
13	直田川	古屋敷橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
14	天津神川	一休ヶ丘 バス停付近	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
15	遠藤川	下切山橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
16	田辺用水路	草屋橋	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-
17	鑄川	新水取橋 付近	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
18	責谷川	責谷川上流	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
19	虚空蔵谷川	虚空蔵谷橋	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
20	宇頭城川	普賢寺 公民館付近	<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
			<0.001	<0.1	<0.002	<0.01	<0.001	<0.0005	-
人の健康の保護に関する環境基準			0.003 以下	検出され ないこと	0.01 以下	0.05 以下	0.01 以下	0.0005 以下	検出され ないこと

注1. 番号は、図 2-2.7 に対応している。

注2. 上段：平成 30 年 8 月 2 日採取、下段：平成 30 年 12 月 13 日採取。

注3. “<” は報告下限値未満、“-” は測定項目外を示す。

出典：「市内河川の水質検査結果について（平成 30 年度京田辺市河川水質検査結果一覧表）」

（京田辺市ホームページ）

表 2-2.20(1) 水質調査測定結果（京田辺市：生活環境項目）

番号	河川等	測定地点名	pH	SS	BOD	COD	大腸菌 群数	全窒素	全りん	全亜鉛
			-	mg/L	mg/L	mg/L	MPN/100mL	mg/L	mg/L	mg/L
1	幹線排水路	神屋橋	7.5	1	1.1	2.6	6.1×10^3	0.74	0.14	-
			7.4	13	2.0	4.6	8.1×10^3	1.3	0.13	-
2	防賀川	新神矢橋	7.6	2	1.3	2.8	4.5×10^3	0.85	0.13	<0.01
			7.4	3	1.6	3.7	1.7×10^3	1.5	0.071	<0.01
3	防賀川	中島橋	7.1	4	1.4	3.0	2.8×10^3	1.1	0.13	-
			7.3	3	0.9	2.0	1.2×10^3	2.0	0.082	-
4	馬坂川	浜新田橋	7.3	3	1.5	3.4	3.2×10^3	1.2	0.20	-
			7.2	2	1.2	2.8	2.3×10^3	1.2	0.061	-
5	鬼灯川	普賢寺 小学校付近	7.6	1	0.8	1.6	2.2×10^3	1.2	0.19	<0.01
			7.3	4	0.8	2.1	4.0×10^3	1.4	0.13	<0.01
6	普賢寺川	普賢寺 小学校付近	7.2	5	1.0	2.2	2.4×10^3	1.1	0.15	-
			7.2	2	0.9	2.1	6.0×10^2	1.0	0.059	-
7	普賢寺川	学園橋	7.4	4	1.1	2.2	4.0×10^3	0.90	0.099	-
			7.3	4	0.8	1.9	3.0×10^3	1.2	0.062	-
8	普賢寺川	木津川 合流点手前	7.5	<1	1.3	2.4	8.1×10^3	2.6	0.10	0.01
			7.4	2	1.0	2.0	8.1×10^2	1.3	0.059	<0.01
9	手原川	枚方市 境界付近	7.6	3	1.4	2.7	9.3×10^3	2.8	0.057	<0.01
			7.1	3	1.3	3.0	6.8×10^3	2.1	0.038	<0.01
10	手原川	薪溜池橋	7.1	<1	0.7	1.1	6.0×10^2	2.2	0.031	<0.01
			6.8	<1	0.7	1.5	1.5×10^3	1.5	0.021	<0.01
11	手原川	木津川 合流手前	7.3	3	0.9	1.3	2.8×10^3	1.3	0.042	0.02
			7.2	<1	0.6	1.5	9.1×10^2	1.6	0.028	0.01
12	竜王谷川	野上橋	8.3	<1	1.6	2.5	1.2×10^4	1.0	0.078	<0.01
			6.9	2	0.7	1.7	1.2×10^3	1.0	0.050	<0.01
13	直田川	古屋敷橋	7.3	3	1.5	2.5	1.9×10^3	1.4	0.27	<0.01
			7.9	3	2.1	4.8	9.1×10^3	1.4	0.25	0.01
14	天津神川	一休ヶ丘 バス停付近	6.7	<1	3.4	8.6	1.1×10^4	2.9	0.03	0.01
			7.8	3	1.0	2.4	7.8×10^3	2.6	0.019	0.01
15	遠藤川	下切山橋	7.4	2	0.9	1.3	2.5×10^3	1.8	0.10	<0.01
			7.5	2	1.4	3.5	1.9×10^3	0.57	0.023	0.01
16	田辺用水路	草屋橋	7.3	<1	1.8	3.3	4.0×10^3	1.4	0.21	-
			7.3	2	0.8	2.1	1.2×10^3	1.6	0.050	-
17	鑄川	新水取橋付近	7.6	2	1.6	2.7	2.2×10^3	1.3	0.12	<0.01
			7.6	3	1.0	2.2	2.5×10^3	1.2	0.045	0.01
18	責谷川	責谷川上流	6.5	3	1.2	2.3	2.5×10^3	0.70	0.040	<0.01
			6.5	6	0.9	2.1	4.5×10^3	1.3	0.031	<0.01
19	虚空蔵谷川	虚空蔵谷橋	8.4	2	1.6	3.1	1.9×10^3	0.80	0.10	0.02
			7.0	3	1.1	2.6	2.3×10^3	0.87	0.052	<0.01
20	宇頭城川	普賢寺 公民館付近	7.5	3	1.2	3.3	3.2×10^3	1.2	0.10	<0.01
			7.5	5	1.5	3.4	2.8×10^3	1.4	0.054	<0.01

注 1. 番号は、図 2-2.7 に対応している。

注 2. 上段：平成 30 年 8 月 2 日採取、下段：平成 30 年 12 月 13 日採取。

注 3. pH は水素イオン濃度、SS は浮遊物質量、BOD は生物化学的酸素要求量、COD は化学的酸素要求量のことである。

注 4. “<” は報告下限値未満、“-” は測定項目外を示す。

出典：「市内河川の水質検査結果について（平成 30 年度京田辺市河川水質検査結果一覧表）」

（京田辺市ホームページ）

表 2-2.20(2) 水質調査測定結果（枚方市：生活環境項目）

番号	河川等	測定地点名	pH		BOD		COD		溶存酸素量		大腸菌群数		浮遊物質	
			最小～最大	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	
			-		mg/L	mg/L		mg/L		(MPN/100mL)		mg/L		
21	船橋川	新宇治橋	7.4～7.9	1.0～3.5	2.3	2.9～8.3	5.7	7.7～13	10	1.3×10 ³ ～4.6×10 ⁴	1.7×10 ⁴	2～9	6	
22	穂谷川	穂谷川新橋	7.7～8.6	0.8～1.9	1.2	3.6～4.7	4.1	8.0～13	11	4.9×10 ² ～7.9×10 ⁴	2.2×10 ⁴	2～11	5	

番号	河川等	測定地点名	全窒素		全りん		全亜鉛		ノニルフェノール		LAS	
			最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均
			mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
21	船橋川	新宇治橋	0.25～1.8	1.2	0.10～0.18	0.15	0.006～0.013	0.010	-	-	-	-
22	穂谷川	穂谷川新橋	0.57～2.3	1.7	0.10～0.14	0.13	0.001～0.009	0.005	-	-	-	-

注 1. 番号は、図 2-2.7 に対応している。

注 2. LAS は直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩のことである。

注 3. pH は水素イオン濃度、BOD は生物化学的酸素要求量、COD は化学的酸素要求量のことである。

注 4. “-” は測定項目外を示す。

出典：「令和元年（2019年）版 環境データ集」（令和元年、枚方市）

表 2-2.21 水質調査測定結果（京田辺市：特殊項目等）

番号	河川等	測定地点名	生活環境項目	特殊項目				その他	
			n-ヘキサン抽出物質	銅	溶解性鉄	溶解性マンガン	全クロム	有機りん	陰イオン界面活性剤
			mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
1	幹線排水路	神屋橋	0.6	-	-	-	-	-	<0.01
			0.8	-	-	-	-	-	<0.01
2	防賀川	新神矢橋	<0.5	0.002	0.08	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.003	0.10	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
3	防賀川	中島橋	<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
			<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
4	馬坂川	浜新田橋	<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
			<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
5	鬼灯川	普賢寺小学校付近	<0.5	<0.001	0.06	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.002	<0.01	0.02	<0.01	<0.1	<0.01
6	普賢寺川	普賢寺小学校付近	<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
			<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
7	普賢寺川	学園橋	<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
			<0.5	-	-	-	-	-	<0.01
8	普賢寺川	木津川合流点手前	0.8	0.003	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.002	0.04	0.02	<0.01	<0.1	<0.01
9	手原川	枚方市境界付近	0.9	<0.001	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	0.01
			0.7	0.002	0.08	0.21	<0.01	<0.1	0.01
10	手原川	薪溜池橋	<0.5	<0.001	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.002	0.01	0.02	<0.01	<0.1	<0.01
11	手原川	木津川合流手前	<0.5	<0.001	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.003	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
12	竜王谷川	野上橋	<0.5	<0.001	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.003	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
13	直田川	古屋敷橋	<0.5	<0.001	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			0.9	0.003	0.18	0.02	<0.01	<0.1	0.01
14	天津神川	一休ヶ丘バス停付近	0.9	0.002	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	0.01
			<0.5	0.003	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	0.01
15	遠藤川	下切山橋	<0.5	<0.001	0.06	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.003	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
16	田辺用水路	草屋橋	0.9	-	-	-	-	-	<0.01
			0.6	-	-	-	-	-	<0.01
17	鑄川	新水取橋付近	<0.5	<0.001	0.04	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.003	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
18	責谷川	責谷川上流	<0.5	0.003	0.08	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.004	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
19	虚空蔵谷川	虚空蔵谷橋	<0.5	0.010	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			0.5	0.004	0.09	0.01	<0.01	<0.1	<0.01
20	宇頭城川	普賢寺公民館付近	<0.5	0.002	0.05	<0.01	<0.01	<0.1	<0.01
			<0.5	0.004	0.02	0.02	<0.01	<0.1	<0.01

注1. 番号は、図 2-2.7 に対応している。

注2. 上段：平成 30 年 8 月 2 日採取、下段：平成 30 年 12 月 13 日採取。

注3. “<” は報告下限値未満、“-” は測定項目外を示す。

出典：「市内河川の水質検査結果について（平成 30 年度京田辺市河川水質検査結果一覧表）」

（京田辺市ホームページ）

3) 水底の底質に係る環境の状況

調査地域周辺では水底の底質に係る測定は実施されていない。

4) 地下水に係る環境の状況

調査地域周辺における地下水の状況については、水質の全体的な地下水の水質の状況を把握するために実施する概況調査（4地点）及び地下水汚染が確認された地区について継続的に監視を行うために実施する継続監視調査（2地点）が行われている。また、地下水質中のダイオキシンについては、枚方市により1地点において測定が実施されている。

調査地域周辺における地下水水質測定結果を表 2-2.22～表 2-2.24に示す。概況調査については、京田辺市では平成26年度のみ、枚方市では平成26～29年度に測定を実施している。ダイオキシン類については、枚方市で平成24年度のみ測定を実施している。

概況調査及び地下水質中のダイオキシン類では、全ての測定地点で環境基準を満足しているが、継続監視調査では、京田辺市では平成28年度調査でほう素が、枚方市では平成28～30年度調査で砒素が環境基準を満足していない。

表 2-2.22 地下水水質測定結果（概況調査）

項目	番号 測定地点名					基準値
	平成 26 年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
	No. 4729 (京田辺市)	杉責谷 1 丁目 (枚方市)	長尾家具町 3 丁目 (枚方市)	尊延寺 (枚方市)	尊延寺 (枚方市)	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	<0.1	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	検出されないこと。
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	-	-	-	-	-	検出されないこと。
PCB	-	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
クロロエチレン(別名 塩化ビニル又は塩化ビ ニルモノマー)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタ ン	<0.1	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタ ン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.003	<0.002	<0.001	<0.002	<0.001	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.003	0.003	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸 性窒素	1.2	5.8	<0.08	1.4	2.6	10mg/L 以下
ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.10	0.8mg/L 以下
ほう素	<0.1	0.02	<0.02	0.02	0.03	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下

注. “<”は報告下限値未満、“N. D.”は定量下限値未満、“-”は測定項目外を示す。

出典：「平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 27 年、京都府）

：「平成 27 年（2015 年）～30 年（2018 年）版 環境データ集」（平成 27～30 年、枚方市）

表 2-2.23 地下水水質測定結果（継続監視調査）

項目	測定地点名						基準値
	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		
	No. 4830 (京田辺市)	尊延寺馬廻 (枚方市)	No. 4830 (京田辺市)	尊延寺馬廻 (枚方市)	No. 4830 (京田辺市)	尊延寺馬廻 (枚方市)	
鉛	-	0.008	-	0.009	-	0.007	0.01mg/L 以下
砒素	-	0.014	-	0.013	-	0.012	0.01mg/L 以下
総水銀	-	<0.0005	-	<0.0005	-	<0.0005	0.0005mg/L 以下
ほう素	2.5	-	-	-	-	-	1 mg/L 以下

注. “<” は報告下限値未満、“-” は測定項目外を示す。

出典：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 29 年、京都府）

：「平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）版 環境データ集」（平成 29～令和元年、枚方市）

表 2-2.24 地下水質中のダイオキシン類測定結果

市	測定場所	調査年度	測定結果	基準値
枚方市	穂谷 2 丁目	平成 24 年度	0.046pg-TEQ/L	1 pg-TEQ/L 以下

出典：「平成 25 年（2013 年）版 環境データ集」（平成 25 年、枚方市）

(3) 土壌及び地盤の状況

1) 一般的な土壌の状況

調査地域周辺の土壌図を図 2-2.8 に示す。山地及び丘陵地の土壌は、残積性未熟土壌、乾性褐色森林土壌が大半を占めている。調査地域東側を流れる木津川周辺の低地は中粗粒強グライ土壌、中粗粒褐色低地土壌がみられる。また、穂谷川や普賢寺川周辺には灰色低地土壌（中粗粒灰色低地土壌）が帯状に分布している。対象事業実施区域の土壌は残積性未熟土壌が大半を占めている。

出典：「土地分類基本調査図（土壌図） 京都東北部・京都東南部」（昭和 59 年、京都府・滋賀県）

：「土地分類基本調査図（土壌図） 京都西南部」（昭和 47 年、経済企画庁）

：「土地分類基本調査図（土壌図） 大阪東北部・奈良・上野」（昭和 58 年、京都府）

：「土地分類基本調査図（土壌図） 大阪西北部・大阪東北部」（昭和 53 年、大阪府）

：「土地分類基本調査図（土壌図） 奈良・大阪東北部・大阪東南部」（昭和 59 年、奈良県）

2) 土壌に係る環境の状況

調査地域周辺における土壌中のダイオキシン類については、京田辺市及び枚方市による測定が実施されている。土壌中ダイオキシン類測定結果を表 2-2.25に示し、土壌に係るダイオキシン類測定位置を図 2-2.9に示す。

平成21～30年度における全16地点の調査では、いずれも環境基準を満足している。

表 2-2.25(1) 土壌中ダイオキシン類測定結果 (京田辺市)

番号	測定場所	測定値 (pg-TEQ/g)					基準値
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
1	諏訪ヶ原公園	0.11	-	0.52	-	0.91	-
2	薪小学校	0.05	-	-	-	0.77	-
3	一休ヶ丘第6公園	1.1	-	1.0	0.76	-	1.0
4	防賀川公園	0.13	-	-	0.79	-	-
5	酒屋神社周辺	0.05	-	-	-	-	0.69
6	京田辺市野外活動センター	-	5.9	-	1.7	-	3.3
7	甘南備山(芝生公園)	-	-	5.8	-	19	-
8	田辺公園(多目的運動広場)	-	0.28	-	0.46	-	0.60
9	若宮公園	-	5.4	-	-	-	-
10	同志社大学多々羅キャンパス	-	-	-	-	-	0.60
11	大住ヶ丘公園	-	5.2	-	1.2	-	-
12	田辺中学校グラウンド	-	-	0.69	-	0.86	-
13	普賢寺小学校	-	0.55	-	-	0.76	-
14	同志社大学グラウンド	-	-	8.2	-	-	-

注1. 番号は、図 2-2.9に対応している。

注2. “-”は測定を実施していないことを示す。

出典：「京田辺市におけるダイオキシン類の測定結果について」(京田辺市清掃衛生課)

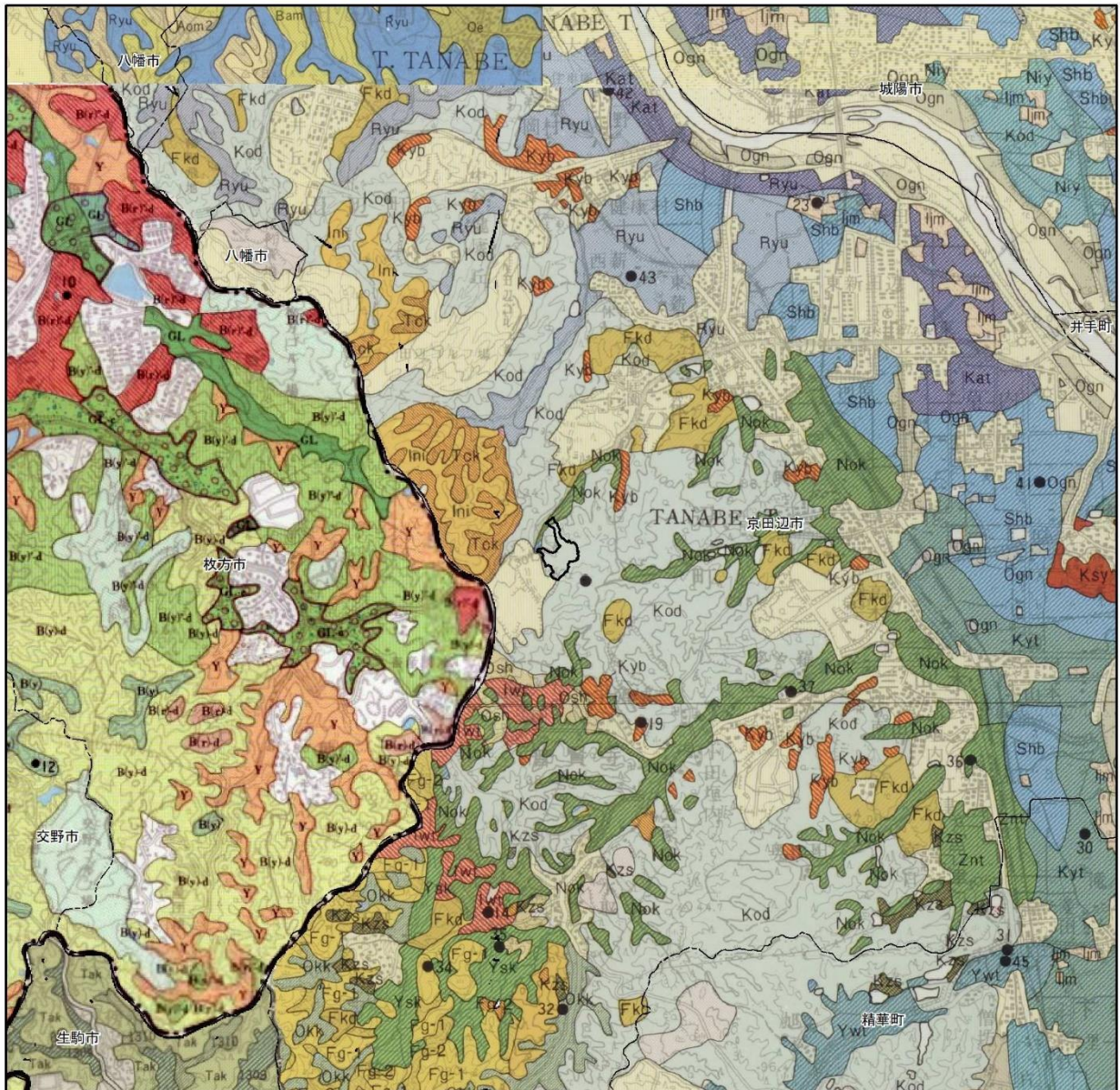
表 2-2.25(2) 土壌中ダイオキシン類測定結果 (枚方市)

番号	測定場所	測定値 (pg-TEQ/g)		基準値
		平成 21 年度	平成 24 年度	
15	菅原小学校	0.045	-	1,000 pg-TEQ/g 以下
16	穂谷公園	-	0.72	

注1. 番号は、図 2-2.9に対応している。

注2. “-”は測定を実施していないことを示す。

出典：「平成22年(2010年)・25年(2013年)版 環境データ集」(平成22・25年、枚方市)



凡例



対象事業実施区域

《山地及び丘陵地》

残積性未熟土壌

Kod 興戸統

人工未熟土壌（削剥地）

乾性褐色森林土壌

Iwt 岩滝統

Osh 押原統

乾性褐色森林土壌（赤褐色系-山地）

Bir-d

乾性褐色森林土壌（赤褐色系-丘陵・台地）

Bir-f-d

乾性黄色系褐色森林土壌

Fg-1 普賢寺1統

Inl 乾谷統

Tak 高山統

乾性褐色森林土壌（黄褐色系-山地）

Biy-d

乾性褐色森林土壌

（黄褐色系-丘陵・台地）

Biy-d

褐色森林土壌（黄褐色系-山地）

By

適潤性黄色系褐色森林土壌

Fg-2 普賢寺2統

ToK 立川統

黄色土壌

Aom2 粟生間谷2統

Y

受蝕土

Er-a 受蝕土

《台地及び低地》

細粒褐色森林土壌

Ksy 笠山統

中粗粒褐色森林土壌

Kyb 萱場統

灰色台地土壌

GU

中粗粒黄色土壌

Fkd 福田統

礫質黄色土壌（斑紋あり）

Kzs 風透統

黄色土壌

Oe 大枝統

中粗粒褐色低地土壌（斑紋なし）

Ijm 飯島統

中粗粒褐色低地土壌（斑紋あり）

Ogn 萩野統

中粗粒灰色低地土壌（灰色系）

Km 加茂統

Kyt 清武統

Toy 豊中統

礫質灰色低地土壌（灰色系）

Okk 追子野木

中粗粒灰色低地土壌（灰褐色系）

Ysk 安来統

Znt 善通寺統

Nok 納倉統

灰色低地土壌

1309 豊中統

1310 久世田統

GL

粗粒灰色低地土壌

GL-c

中粗粒強グライ土壌

Shb 芝井統

Kat 片桐統

礫質強グライ土壌

Ryu 竜北統

中粗粒グライ土壌

Niy 新山統

Ywt 八幡統

竹林土壌

Ban

《その他》

緑地（公園・ゴルフ場など）

水面

人工改変地

市街地、その他

未区分地

1m以内の埋層または砂層（農地）

土壌断面柱状図位置及び番号

出典：本文中に示す。

1:50,000

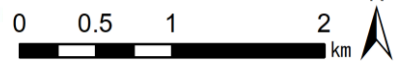




図 2-2.8 土壌図



凡 例

-  対象事業実施区域
-  ダイオキシン類測定位置

出典：「京田辺市におけるダイオキシン類の測定結果について」（京田辺市清掃衛生課）
 ：「平成 22（2010）・25（2013）年版 環境データ集」（平成 22・25 年、枚方市）
 「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

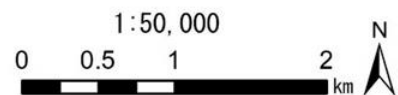


図 2-2.9 土壤に係るダイオキシン類測定位置図

3) 地盤の状況

「全国地盤環境情報ディレクトリ（平成29年度版）」（環境省）によると、調査地域周辺では地盤沈下は認められていない。

京田辺市では、地盤沈下の測定地点はないが、京都盆地における地盤沈下の傾向は鈍化してきている。

枚方市では、市域の地盤沈下状況を把握するため、市内42地点に一級水準点を設置して昭和47年度から水準測量を実施している。「令和元年（2019年）版 環境データ集」（令和元年、枚方市）によると、枚方市では地盤沈下は沈静化しており、平成30年度の測定値は平成27年度と比べ、大きな変動はなかった。

また、京田辺市では、地下水の枯渇防止及び地下水資源の保全と生活用水等を確保することを目的とした京田辺市地下水保全要綱（昭和60年京田辺市告示第114号）を制定している。

枚方市では、市域の地盤沈下を防止するため昭和47年から平成25年の全面改正前の枚方市公害防止条例（昭和46年枚方市条例第38号）において地下水の採取に関する規制を行っており、全面改正後の枚方市公害防止条例（平成25年枚方市条例第67号）第4章においても、地下水の採取に関する規制が定められている。

(4) 地形及び地質の状況

1) 一般的な地形の状況

調査地域周辺の地形を図 2-2.10に示す。地形は、山地、丘陵地が大半を占め、調査地域の東側に流れる木津川周辺に低地の谷底平野や自然堤防などが分布している。

また、丘陵地周辺には人工改変地がパッチ状に分布しているほか、河川周辺には帯状に低地(谷底平野)がみられる。対象事業実施区域は丘陵地に位置しており、隣接した南西側に人工改変地が分布しているものの、周囲は山地や丘陵地で囲まれている。

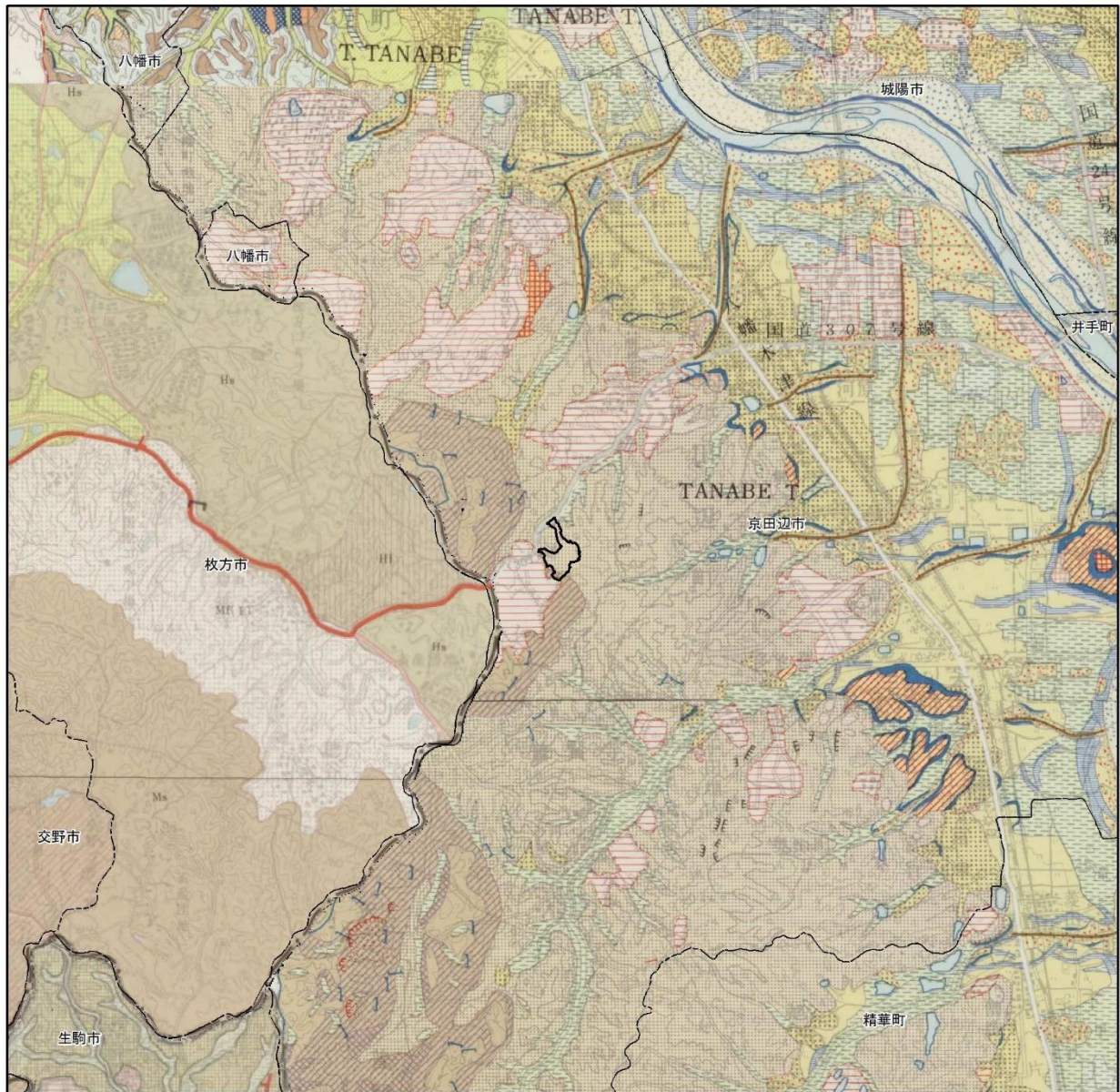
なお、「活断層データベース」(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)によると、調査地域に活断層は分布していない。

出典：「土地分類基本調査図(地形分類図) 京都東北部・京都東南部」(昭和59年、京都府・滋賀県)
：「土地分類基本調査図(地形分類図) 京都西南部」(昭和47年、経済企画庁)
：「土地分類基本調査図(地形分類図) 大阪東北部・奈良・上野」(昭和58年、京都府)
：「土地分類基本調査図(地形分類図) 大阪西北部・大阪東北部」(昭和53年、大阪府)
：「土地分類基本調査図(地形分類図) 奈良・大阪東北部・大阪東南部」(昭和59年、奈良県)

2) 一般的な地質、堆積物の状況

調査地域周辺の地質を図 2-2.11に示す。地質は、山地及び丘陵地には礫、砂礫及び砂が分布し、国見山から交野山周辺の山地は花崗岩、生駒山地の東側に位置する丘陵地は砂や砂礫が分布している。また、普賢寺川や穂谷川など調査地域を流れる河川周辺は礫、調査地域東側に流れる木津川周辺の低地は泥や砂が分布している。対象事業実施区域の地質は礫が大半を占めている。

出典：「土地分類基本調査図(表層地質図) 京都東北部・京都東南部」(昭和59年、京都府・滋賀県)
：「土地分類基本調査図(表層地質図) 京都西南部」(昭和47年、経済企画庁)
：「土地分類基本調査図(表層地質図) 大阪東北部・奈良・上野」(昭和58年、京都府)
：「土地分類基本調査図(表層地質図) 大阪西北部・大阪東北部」(昭和53年、大阪府)
：「土地分類基本調査図(表層地質図) 奈良・大阪東北部・大阪東南部」(昭和59年、奈良県)



凡例

○ 対象事業実施区域

山地

- 急傾斜・急斜面
- 中間傾斜・中間斜面
- Mm 中起伏地
- Ms 小起伏地
- 山頂緩斜面
- 山腹・山麓緩斜面
- Mf(1) 山麓地 I

丘陵地

- H1 丘陵地 I
- Hs 丘陵地 II

台地・段丘

- 砂礫台地 I
- 砂礫台地 II
- Gt 砂礫台地

低地

- 谷底平野・氾濫平野 I
- 谷底平野・氾濫平野 II
- 扇状地 I (急)・崖錐
- 扇状地 II (緩)
- 扇状地および緩斜谷底面
- 三角州
- 自然堤防・天井川沿いの微高地

Rr

- 天井川
- 河原 I (高水敷)
- 河原 II (低水敷)
- その他
- 浅い谷 (段丘上)
- 崖
- 山麓緩斜面
- 台地の急傾斜
- はく落・滑落地形
- 地すべり地形

遷移点

- 人工改変地
- 旧河道
- 主要分水界・河川
- 一級河川
- 池沼・貯水池
- 地形界
- 国道及び主要地方道・一般府道
- A—A 断面線
- 活断層 II (地形学的観察による活断層)

出典：本文中に示す。

1:50,000

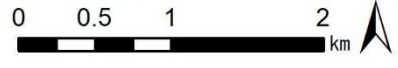
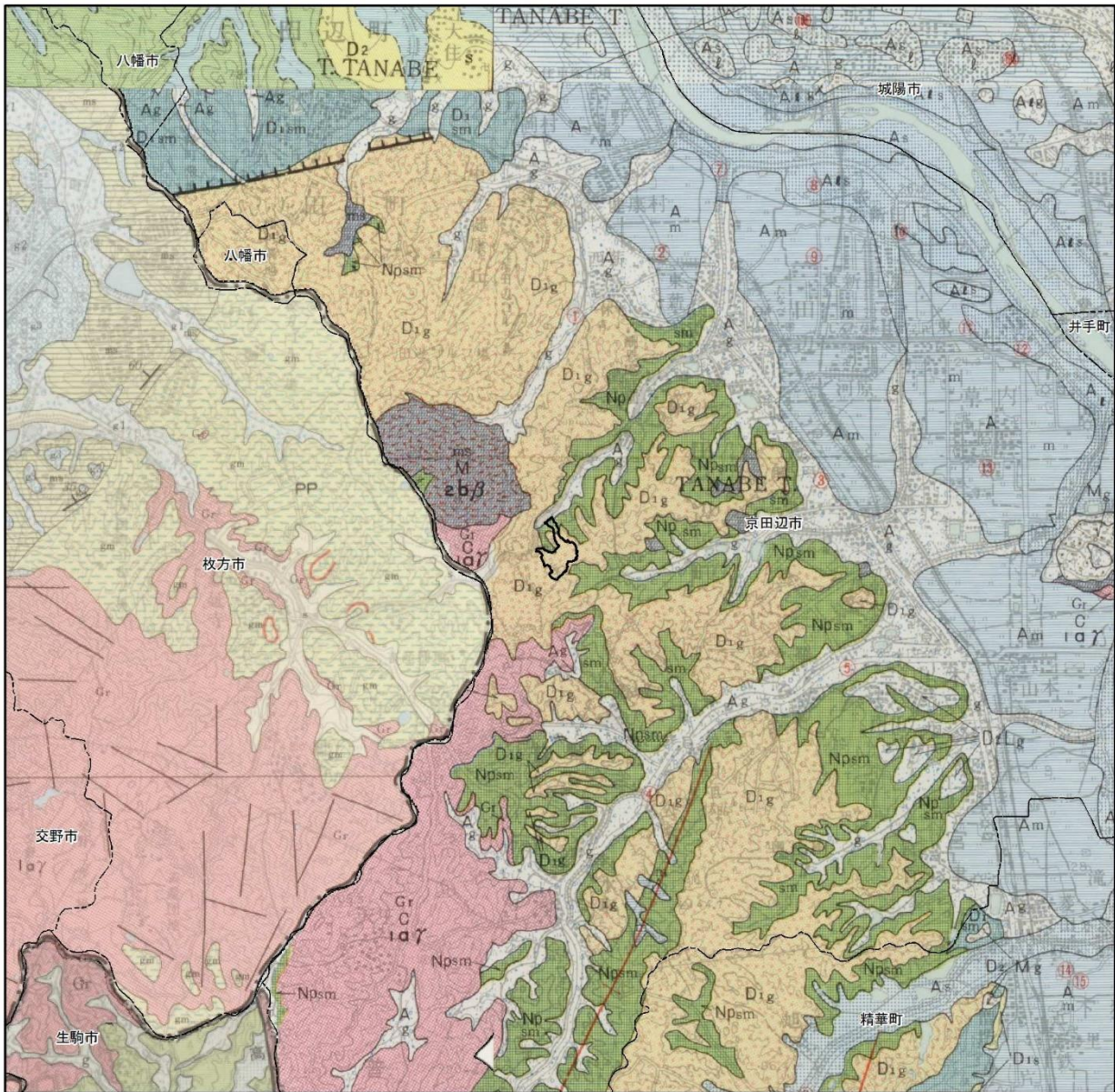


図 2-2.10 地形図



凡例

○ 対象事業実施区域

未固結堆積物

- g 礫, 礫がち堆積物
- s 砂, 砂がち堆積物
- m シルト・砂質粘土
- g1 礫 (低位)
- g2 礫 (中位)
- g3 礫 (高位)
- m 泥がち堆積物
- ms 泥および砂
- gm 砂礫および泥

半固結堆積物

- g 礫 (中位段丘)
- g 礫
- s 砂
- sm 砂泥互層
- Sh 砂・粘土層
- sn 粘土・砂の互層 (上部に礫層)

固結堆積物

- ms 泥岩を主とし、チャート・砂岩・イソ状岩体を含む
- 深成岩類、火成岩類
- Gr 花崗岩質岩石

- 地層の走行および傾斜
- 背斜軸・向斜軸
- 断層
- 断面線
- ボーリング柱状図の地点
- アスキ火山灰層
- 新田火山灰層
- 航空写真判読による線状模様

岩片のかたさ

- a 軟 (耐圧強度 100 kg/cm²未満)
- b 中 (耐圧強度 100 ~ 400 kg/cm²)
- c 硬 (耐圧強度 400 kg/cm²以上)

岩体のかたさ

- 1 軟 (弾性波伝播速度 1.5 km/sec 未満)
- 2 中 (弾性波伝播速度 1.5 ~ 3.0 km/sec)

風化帯の深度

- α 浅い (約 3m 以浅)
- β 中程度 (約 3 ~ 10m)
- γ 深い (約 10m 以深)

出典：本文中に示す。

1:50,000

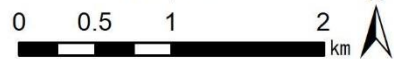


図 2-2.11 地質図

3) 重要な地形、地質及び自然現象の分布及び特性

① 重要な地形

「京都府レッドデータブック2015」（平成27年、京都府）及び「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）に記載されている調査地域周辺の重要な地形一覧を表 2-2.26 に示す。調査地域周辺にはいずれの地形も位置していると考えられ、そのうち浜新田及び京阪奈丘陵については、京都府レッドデータブック2015で重要な地形として指定されている。

表 2-2.26 調査地域の重要な地形一覧

類型	名称	所在地	選定基準	
			京都府 RDB	大阪府 RL
自然堤防	浜新田	京田辺市浜新田	要注意	
丘陵	京阪奈丘陵	相楽郡精華町、京田辺市	消滅危惧	
中位段丘地形と構成層（枚方層）	枚方の中位段丘層	枚方市、寝屋川市		B ランク

注1. 京都府 RDB：京都府レッドデータブック 2015 掲載種

消滅： 京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、既に破壊され、現存しない地形。

消滅危惧： 京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現在著しく破壊されつつある地形、または大規模開発などによって破壊が危惧され、緊急に保護を必要とする地形。

要注意： 京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現時点で軽度の破壊を受けており、今後も破壊が続けば消滅が危惧される地形。

要継続保護： 京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現時点では保存が良好であり、今後も保護を続けるべき地形。

注2. 大阪府 RL：大阪府レッドリスト 2014 掲載種

A ランク： 規模的、質的にすぐれており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの。

B ランク： A ランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県の価値に相当するもの。

C ランク： B ランクに準ずるもので、市町村的価値に相当するもの。

注3. 所在地は、出典に記載されているものであり、調査地域外の地名も含む。

出典：「京都府レッドデータブック 2015」（平成 27 年、京都府）

：「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年、大阪府）

② 重要な地質

調査地域周辺の重要な地質一覧を表 2-2.27 に示す。甘南備山の水晶は、京都府レッドデータブック2015で重要な地質として指定されている。

表 2-2.27 調査地域の重要な地質一覧

分類	名称	細分	時代区分	所在地	選定基準
					京都府 RDB
鉱物	甘南備山の水晶	酸化鉱物	中生代白亜紀	京田辺市新、甘南備山「水晶山」	消滅寸前

注1. 京都府 RDB：京都府レッドデータブック 2015 掲載種

消滅： 京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、既に破壊や掘削され現存しない地質。

消滅寸前： 京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、著しく破壊されつつある地質。または対象露頭はなくなったが、地下に対象物の延長はある地質。

消滅危惧： 京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、破壊が継続されれば、消滅が危惧される地質。または対象露頭は埋め立てられたが、そこに存在することが明らかなもの。

要注意： 京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、学術的には全ての地点に該当するが、ここでは特に期待される研究指針が指摘される地質。

出典：「京都府レッドデータブック 2015」（平成 27 年、京都府）

③ 重要な自然現象

京都府レッドデータブック2015及び大阪府レッドリスト2014によると、調査地域周辺に重要な自然現象はない。

(5) 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1) 動物

① 調査地域に生息する可能性のある重要種

「第2回～第6回自然環境保全基礎調査」(昭和53年～平成17年、環境庁、環境省)、京都府レッドデータブック2015、「京都府鳥類目録2016」(平成28年、日本野鳥の会京都支部)及び「大阪府鳥類目録2016」(平成28年、日本野鳥の会大阪支部)における動物の分布状況を整理し、調査地域に生息する可能性のある重要種を抽出した。なお、大阪府レッドリスト2014からは、掲載種の生息する地域についての情報が得られなかったため、文献の対象としなかった。

自然環境保全基礎調査で調査対象とした範囲は、調査地域周辺を含む2次メッシュ(523515、523516、523525、523526)とした。2次メッシュを図2-2.12に示す。

京都府レッドデータブック2015では、府内の分布区域に「京田辺市」、「山城地域」、「木津川(淀川水系)」、「南部地域」、「府内全域」と記載がある種を抽出した。ただし、「府内全域」等の記載があっても、「局地的」や「ブナ林に生息する」等の説明があり、調査地域付近における生息情報として不適切と考えられる種は除外した。

京都府鳥類目録2016では、確認地に「京田辺市」、「木津川」、「木津川流域」、「府南部」、「府内」、「京都府全域」と記載がある種を抽出した。

大阪府鳥類目録2016では、調査地域周辺を含む2次メッシュ(523515)を調査対象とした。

調査地域周辺に生息する可能性のある重要種一覧(動物)を表2-2.28に示す。

哺乳類は8種の重要種が確認された。ホンダザルやニホンアナグマ等、樹林を主な生息環境とする種や、ホンドキツネやホンDOIタチ等の樹林から耕作地等を広く利用する種、ハタネズミやカヤネズミ等の草地に生息する種が確認された。

鳥類は110種の重要種が確認された。サシバ等の猛禽類のほか、チュウサギやコチドリ、イソシギ、オシドリ等の水辺を利用する種、アオバトやアオバズク、サンコウチョウ等の森林に生息する種が多く確認された。

両生類は10種の重要種が確認された。カスミサンショウウオ、アカハライモリのほか、水田等の水辺に生息するトノサマガエルや、樹林に生息するシュレーゲルアオガエル等のカエル類が確認された。

爬虫類は11種の重要種が確認された。水辺でみられるクサガメ、ニホンスッポンや、草地から樹林に生息するニホントカゲやヤマカガシ、ニホンマムシ等が確認された。

昆虫類は82種の重要種が確認された。ムカシヤンマやハッチョウトンボ等のトンボ類、ヤスマツアメンボやタガメ等の水生昆虫、ウラギンスジヒョウモン等のチョウ類、オオクワガタやヨツボシカミキリ等のコウチュウ類等が確認された。

魚類は29種の重要種が確認された。ヤリタナゴやタモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ等、水田や流れの緩やかな小河川に生息する種が多く確認された。なお、国の天然記念物に指定されているアユモドキは、「第4回自然環境保全基礎調査」(平成5年、環境庁)においても確認されている。

貝類は20種の重要種が確認された。浅い河川等に生息するカワニナ類やモノアラガイ、陸生のナミマイマイ、淡水生の二枚貝であるイシガイやマシジミ等が確認された。

なお、京都府レッドデータブック2015では、これらの分類群以外の重要種として、甲殻類のモクズガニとクモ類のキノボリトタテグモが調査地域に生息する可能性のある種としてあげられる。



図 2-2.12 調査地域を含む2次メッシュ図

表 2-2. 28(1) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
哺乳類	1	モグラ目(食虫目)	トガリネズミ科	ジネズミ	6						準絶**1	DD**2		
	2	サル目(霊長目)	オナガザル科	ホンダザル	3, 4, 5, 6						注目			
	3	ネズミ目(齧歯目)	ネズミ科	ハタネズミ	3, 4, 6						準絶	CR+EN		
	4	ネコ目(食肉目)	クマ科	ツキノワグマ	5						寸前	NT		
	5			イヌ科	ホンドキツネ	1, 3, 4, 5					注目	CR+EN**4		
	6			イタチ科	ホンDOIタチ	3, 4						VU**5		
	7			ニホンアナグマ	1, 5							NT**6		
	8	合計	4目	6科	8種	-	0種	0種	0種	0種	0種	6種	6種	
鳥類	1	キジ目	キジ科	ウズラ	6					VU	寸前	CR+EN		
	2	カモ目	カモ科	ヤマドリ	1, 6, 8						準絶			
	3			ヒシクイ	8					VU				
	4			マガン	8					NT				
	5			コクガン	8					VU				
	6			コハクチョウ	6, 8						準絶			
	7			ツクシガモ	7, 8					VU				
	8			オシドリ	6, 8					DD	準絶			
	9			シマアジ	6, 8						準絶			
	10			トモエガモ	6, 7, 8					VU	準絶			
	11			シノリガモ	6, 8						準絶			
	12			ホオジロガモ	6, 8						準絶			
	13			ミコアイサ	2, 6, 7, 8						準絶			
	14			カワアイサ	6, 7, 8						準絶			
	15			カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	1, 2, 6, 7, 8						準絶	
	16	ハト目	ハト科	アオバト	1, 6, 8						準絶			
	17	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	1, 6, 8					NT	危惧	VU		
	18			ミゾゴイ	1, 6, 8					VU	寸前	VU		
	19			ササゴイ	6, 8						準絶			
	20			アマサギ	1, 7, 8							準絶	VU	
	21			チュウサギ	1, 2, 6, 7, 8						NT	準絶		
	22	ツル目	クイナ科	クイナ	6, 7, 8						危惧	NT		
	23			ヒクイナ	1, 6, 8					NT	危惧	VU		
	24			オオバン	6, 7, 8						準絶			
	25	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	6, 8						準絶			
	26			ツツドリ	1, 6, 8						準絶	NT		
	27			カッコウ	6, 8						準絶			
	28	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	1, 6, 8					NT	危惧	VU		
	29	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	6, 8						危惧			
	30	チドリ目	チドリ科	タゲリ	2, 6, 7, 8							準絶	NT	
	31			ケリ	1, 2, 7, 8						DD		NT	
	32			ムナグロ	6, 8							準絶	VU	
	33			イカルチドリ	6, 7, 8							準絶	VU	
	34			コチドリ	1, 2, 8								準絶	NT
	35			シロチドリ	2, 6, 7, 8						VU	危惧	VU	
	36			セイタカシギ科 シギ科	セイタカシギ	6, 8						VU	準絶	
	37				ヤマシギ	6, 8							危惧	
	38				アオシギ	6, 8							危惧	
	39				オオジシギ	6						NT	準絶	NT
	40				ハリオシギ	6							危惧	
	41				チュウジシギ	6, 8							準絶	NT
	42		タシギ		2, 7, 8								準絶	NT
	43		コシヤクシギ		8			国際				EN		
	44		チュウシヤクシギ		6, 8								準絶	NT
	45		ホウロクシギ		6, 7			国際				VU	危惧	NT
	46		コアオアシギ		6, 7								危惧	NT
	47		アオアシギ		6, 8								準絶	VU
	48		クサシギ		2, 6, 8								準絶	NT
	49		タカブシギ		2, 8							VU		VU
	50		キアシシギ		6, 8								準絶	NT
	51		ソリハシシギ		6								危惧	VU
	52		イソシギ		2, 6, 7, 8								準絶	NT
	53		トウネン		6								危惧	NT
	54		オジロトウネン		6, 7								危惧	NT
	55		ヒバリシギ		6								危惧	VU
	56				ハマシギ	2, 6, 8							NT	準絶

表 2-2. 28(2) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
鳥類	57	チドリ目	タマシギ科	タマシギ	1, 6, 8			希少		VU	危惧	VU	
	58		カモメ科	ウミネコ	6, 8						注目		
	59			コアジサシ	1, 6, 8			希少		VU	危惧	CR+EN	
	60	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	6, 7, 8					NT	危惧		
	61		タカ科	ハチクマ	6, 8					NT	危惧	CR+EN	
	62			チュウヒ	6, 8		国内			EN	危惧	CR+EN	
	63			ハイイロチュウヒ	6, 8						危惧	NT	
	64			ツミ	6, 8						危惧	VU	
	65			ハイタカ	2, 6, 8					NT	準絶		
	66			オオタカ	6, 8			希少		NT	危惧	NT	
	67			サシバ	1, 6, 7, 8					VU	危惧	CR+EN	
	68			ノスリ	1, 6, 7, 8						準絶	NT	
	69			クマタカ	6		国内			EN	危惧	CR+EN	
	70	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	6, 8						危惧	DD	
	71			フクロウ	6, 8						準絶	NT	
	72			アオバズク	1, 6, 8						準絶	VU	
	73			トラフズク	6, 8						危惧	VU	
	74			コミミズク	6, 8						危惧	VU	
	75	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカシヨウビン	1, 6, 8						危惧		
	76			ヤマセミ	6						危惧	NT	
	77	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	6, 8						準絶		
	78			オオアカゲラ	1, 6						危惧	NT	
	79			アカゲラ	2, 6, 8						準絶		
	80	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	6, 7, 8						危惧		
	81			コチョウゲンボウ	6, 7, 8						危惧	NT	
	82			チゴハヤブサ	6, 8						準絶		
	83			ハヤブサ	6, 8		国内			VU	危惧		
	84	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	8		国内			EN			
	85		サンショウクイ科	サンショウクイ	1, 6, 8						VU	危惧	VU
	86		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	1, 6, 8						準絶		
	87		モズ科	アカモズ	7					EN			
	88		カラス科	コクマルガラス	6, 7, 8						準絶		
	89		ツリスガラ科	ツリスガラ	6						準絶		
	90		ヒバリ科	ヒバリ	1, 2, 7, 8							NT	
91		ツバメ科	コシアカツバメ	1, 7, 8							NT		
92		ムシクイ科	センダイムシクイ	1, 8							NT		
93		ヨシキリ科	オオヨシキリ	1, 7, 8							NT		
94		セッカ科	セッカ	1, 7, 8							NT		
95		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	6, 8						準絶	NT		
96		ムクドリ科	コムクドリ	6, 8						危惧			
97		カワガラス科	カワガラス	1, 8							NT		
98		ヒタキ科	マミジロ	6, 8						危惧			
99			トラツグミ	6, 7, 8						準絶	NT		
100			クロツグミ	1, 6, 8						準絶			
101			コルリ	6, 8						準絶			
102			コサメヒタキ	1, 6, 8						危惧	VU		
103			ムギマキ	6, 7, 8						準絶			
104		アトリ科	ハギマシコ	6						準絶			
105			イスカ	6, 8						準絶			
106		ホオジロ科	ホオアカ	7, 8							NT		
107			カシラダカ	2, 7, 8							NT		
108			ミヤマホオジロ	7, 8							NT		
109			クロジ	6, 8						危惧			
110			オオジュリン	8							NT		
合計		16 目	37 科	110 種	-	0 種	6 種	3 種	0 種	33 種	88 種	61 種	

表 2-2. 28(3) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
両生類	1	有尾目	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	6			希少		VU	寸前	CR+EN	
	2		イモリ科	アカハライモリ	6					NT	注目	NT	
	3	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	6						準絶	VU	
	4		アカガエル科	ニホンアカガエル	6							注目	VU
	5			トノサマガエル	3, 4, 6					NT	注目	NT	
	6			ナゴヤダルマガエル	3, 6				希少	EN	寸前	CR+EN ^{*7}	
	7			ツチガエル	3, 6							注目	NT
	8		ヌマガエル科	ヌマガエル	4, 6							注目	
	9		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	4, 6							注目	NT
	10			カジカガエル	6							注目	
合計	2目	6科	10種	-	0種	0種	2種	0種	4種	10種	8種		
爬虫類	1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	6					NT	注目	NT	
	2			クサガメ	4, 6						注目		
	3		スッポン科	ニホンスッポン	6					DD	注目		
	4	有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ	4, 6						注目		
	5		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	6						注目	NT	
	6		ナミヘビ科	アオダイショウ	6							注目	
	7			ジムグリ	4, 6							注目	
	8			シロマダラ	6							注目	NT
	9			ヒバカリ	4, 6							注目	VU
	10			ヤマカガシ	4, 6							準絶	NT
	11		クサリヘビ科	ニホンマムシ	6							注目	
合計	2目	6科	11種	-	0種	0種	0種	0種	2種	11種	5種		

表 2-2. 28(4) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
昆虫類	1	カゲロウ目 (蜉蝣目)	シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ	6						注目			
	2	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネイトンボ	6						準絶	NT		
	3	蜻蛉目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	キイトトンボ	4							NT		
	4			ベニイトトンボ	1				NT	準絶	NT			
	5			セスジイトトンボ	4, 6						注目	NT		
	6			オオイトトンボ	6						注目	CR+EN		
	7		ヤンマ科	アオヤンマ	1, 4, 6					NT	危惧	VU		
	8			オオルリボシヤンマ	1, 4							NT		
	9			カトリヤンマ	4, 6						注目	NT		
	10			サラサヤンマ	4							NT		
	11		サナエトンボ科	ミヤマサナエ	6						注目	VU		
	12			ホンサナエ	1, 4							VU		
	13			ウチワヤンマ	4							NT		
	14			オオサカサナエ	1, 6					VU	注目	VU		
	15			メガネサナエ	1					VU	注目	VU		
	16			フタスジサナエ	6					NT	注目	NT		
	17			コサナエ	6						注目			
	18			オグマサナエ	3, 4, 6					NT	注目	VU		
	19		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	1						準絶	NT		
	20		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	1					NT	準絶	CR+EN		
	21			ハネビロエゾトンボ	1, 6					VU	寸前	VU		
	22			エゾトンボ	1							VU		
	23		トンボ科	コフキトンボ	4							NT		
	24			ヨツボシトンボ	1, 4								NT	
	25			ハッチョウトンボ	1				登録			準絶	CR+EN	
	26			ナツアカネ	3, 4								NT	
	27			アキアカネ	4								NT	
	28			ナニワトンボ	1, 4						VU	準絶	VU	
	29			ノシメトンボ	4								NT	
	30			マイコアカネ	4, 6							注目	NT	
	31			ヒメアカネ	4								NT	
	32				ミヤマアカネ	4, 6							準絶	NT
	33	ゴキブリ目 (網翅目)		チャバネゴキブリ科	ツチゴキブリ本土亜種	6							注目	
	34	カマキリ目 (螳螂目)	カマキリ科	チョウセンカマキリ	6						注目 ^{**8}			
	35	バッタ目	バッタ科	カワラバッタ	6							危惧	EX	
	36	直翅目 (直翅目)	イナゴ科	ショウリョウバッタモドキ	6							注目		
	37			ダイリフキバッタ	1								NT	
	38			セグロイナゴ	6							危惧	VU ^{**9}	
	39	カメムシ目 (半翅目)	セミ科	ハルゼミ	1								NT	
	40		アメンボ科	エサキアメンボ	4, 6					NT	危惧	VU		
	41			ヤスマツアメンボ	4								NT	
	42		コオイムシ科	タガメ	1						VU	危惧	VU	
	43		タイコウチ科	ヒメミズカマキリ	4								危惧	NT
	44		チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	ホソバセセリ	3							NT	
	45			ギンイチモンジセセリ	1, 6					NT	危惧	EX		
	46				オオチャバネセセリ	3, 4							NT	
	47			シジミチョウ科	ウラジロミドリシジミ	1							準絶	NT
	48			ウラナミアカシジミ	3, 6								準絶	VU
	49			ミドリシジミ	3								NT	
	50			クロシジミ	3						EN	準絶	CR+EN	
	51			タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	6					VU	危惧	CR+EN	
	52				オオウラギンスジヒョウモン	3							NT	
	53				オオウラギンヒョウモン	1, 6					CR	寸前	EX	
	54				オオムラサキ	1, 6					NT	準絶	NT	
	55				ヒメキマダラヒカゲ	6							準絶	NT
	56		アゲハチョウ科	ギフチョウ	1					登録	VU	危惧	CR+EN	
	57		ツバメガ科	ギンツバメ	6							注目		
	58	ハエ目 (双翅目)	ミズアブ科	コガタノミズアブ	6							危惧		
	59		ムシヒキアブ科	アオメアブ	6							注目		
	60			オオイシアブ	6							注目		
	61		ハナアブ科	ルリハナアブ	6								準絶	
	62			クロオビハナアブ	6								注目	
	63			ハチモドキハナアブ	6									準絶

表 2-2. 28(5) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
昆虫類	64	コウチュウ目 (鞘翅目)	ハンミョウ科	ヨドシロヘリハンミョウ	4					VU		EX		
	65			ナミハンミョウ	6						危惧	NT ^{*10}		
	66		ゲンゴロウ科	シャープゲンゴロウモドキ	1		国内			CR	絶滅	EX		
	67		ガムシ科	ガムシ	6					NT	注目	NT		
	68		シデムシ科	ツシマヒラタシデムシ	1							NT		
	69		クワガタムシ科	オオクワガタ	6					VU	寸前	VU		
	70		コメツキムシ科	チャイロムナボソコメツキ	1, 6							注目	NT	
	71			ヨツボシミズギワコメツキ	6							注目		
	72			ヤマモトツヤミズギワコメツキ	6							注目	DD	
	73			ニホンチビマメコメツキ	6							注目	DD	
	74			キョウトチビマメコメツキ	6							注目		
	75			ニセニホンチビマメコメツキ	6							注目		
	76			ヒラタクシコメツキ	6							注目	DD	
	77			テントウムシ科	ハラグロオオテントウ	1								NT
	78		ゴミムシダマシ科	コメノゴミムシダマシ	6							注目		
	79		カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	6					EN	注目	VU		
	80		オトシブミ科	コブルリオトシブミ	6							注目		
	81		ゾウムシ科	アオヒゲナガクチプトゾウムシ	6							注目		
	82		チビゾウムシ科	ケシチビゾウムシ	6							注目		
合計	9目	36科	82種	-	0種	1種	0種	2種	22種	60種	63種			
魚類	1	コイ目	コイ科	ゲンゴロウブナ	3, 4					EN				
	2			ヤリタナゴ	3					NT	準絶	CR+EN		
	3			アブラボテ	6					NT	準絶	CR+EN		
	4			カネヒラ	3, 4, 6						危惧			
	5			イチモンジタナゴ	3, 4, 6					CR	寸前	CR+EN		
	6			シロヒレタビラ	3, 4, 6					EN	危惧	CR+EN		
	7			ワタカ	3, 4					CR	注目	CR+EN		
	8			ハス	3, 4, 6						VU	注目	NT	
	9			ヌマムツ	6							準絶	VU	
	10			アブラハヤ	6							寸前	DD	
	11			ウグイ	4								DD	
	12			カワヒガイ	4, 6						NT	危惧	CR+EN	
	13			タモロコ	3, 4								NT	
	14			ホンモロコ	3					CR	注目			
	15			ゼゼラ	3, 4					VU	危惧	VU		
	16			ヨドゼゼラ	6					EN	準絶	VU		
	17			ツチフキ	6					EN	寸前	CR+EN		
	18			デメモロコ	3					VU	注目	DD		
	19			スゴモロコ	3					VU				
	20			ドジョウ科	ドジョウ	3, 4						DD		VU
	21				シマドジョウ	3								NT
	22				チュウガタスジシマドジョウ	6					VU	寸前	CR+EN	
	23				アユモドキ	3	天然	国内	希少		CR	寸前	CR+EN	
	24	ナマズ目	ギギ科	ギギ	3, 4							NT		
	25		ナマズ科	ビワコオオナマズ	3, 4						注目	NT		
	26			ナマズ	3, 4							NT		
	27	サケ目	アユ科	アユ	3, 4							NT		
	28	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	4				VU	危惧	VU			
	29	スズキ目	ハゼ科	旧トウヨシノボリ類	3, 4							DD ^{*11}		
合計	5目	7科	29種	-	1種	1種	1種	0種	16種	17種	25種			

表 2-2. 28(6) 重要種一覧 (動物)

項目	No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
貝類	1	ニナ目	タニシ科	マルタニシ	6					VU	準絶	VU	
	2			オオタニシ	6					NT	準絶	VU	
	3		カワニナ科	イボカワニナ	3					NT		VU	
	4			ナカセコカワニナ	3					CR+EN	寸前	EX	
	5			ヤマトカワニナ	3					NT	寸前	CR+EN	
	6			クロダカワニナ	3					NT	危惧	VU	
	7	モノアラガイ目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ	3					DD			
	8			モノアラガイ	3, 6					NT	準絶	CR+EN	
	9		ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	3					DD			
	10	マイマイ目	ニッボンマイマイ科	コベソマイマイ	3						準絶		
	11		オナジマイマイ科	クチャガリマイマイ	3					NT	危惧		
	12			コオオベソマイマイ	6						注目		
	13			ナミマイマイ	3, 4						注目 ^{※12}		
	14	イシガイ目	イシガイ科	トンガリササノハガイ	3					NT		VU	
	15			イシガイ	4							NT	
	16			マツカサガイ	6					NT	準絶	VU	
	17			マルドブガイ	3						VU	VU	
	18			オグラヌマガイ	3						CR+EN	寸前	CR+EN
	19			イケチョウガイ	6						CR+EN	寸前	EX
	20	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	3, 4, 6					VU	危惧	VU	
合計	5目	8科	20種	-	0種	0種	0種	0種	16種	14種	14種		

注 1. 種名及び種の配列は鳥類は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成 24 年、日本鳥学会)、他分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号) に基づく天然記念物に指定されている種 天然：天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号) において希少野生動植物種に指定されている種 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例 (平成 19 年京都府条例第 51 号) において指定希少野生生物に指定されている種 希少：指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例 (昭和 56 年京都府条例第 27 号) に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定：京都府指定天然記念物 登録：京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省) において選定されている種
CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府) において選定されている種
絶滅：絶滅種、寸前：絶滅寸前種、危惧：絶滅危惧種、準絶：準絶滅危惧種、注目：要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府) において選定されている種
EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注 3. 重要種の選定について

- ※1 サイゴクジネズミ *Crocidura dsinezumi dsinezumi* での選定
- ※2 ニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* での選定
- ※3 ホンシュウカヤネズミ *Micromys minutus japonicus* での選定
- ※4 キツネ *Vulpes vulpes* での選定
- ※5 ニホンイタチ *Mustela itatisi* での選定
- ※6 アナグマ *Meles meles* での選定
- ※7 ダルマガエル *Rana porosa* での選定
- ※8 カマキリ *Tenodera angustipennis* での選定
- ※9 セグロバツタ *Shirakiacris shirakii* での選定
- ※10 ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* での選定
- ※11 トウヨシノボリ *Rhinogobius kurodai* での選定
- ※12 ニシキマイマイ *Euhadra sandai sandai* 及びナミマイマイ *Euhadra sandai communis* での選定

出典：文献資料 1：第 2 回自然環境保全基礎調査 (昭和 53～55 年、環境庁)
 文献資料 2：第 3 回自然環境保全基礎調査 (昭和 58～63 年、環境庁)
 文献資料 3：第 4 回自然環境保全基礎調査 (昭和 63～平成 5 年、環境庁)
 文献資料 4：第 5 回自然環境保全基礎調査 (平成 5～11 年、環境庁)
 文献資料 5：第 6 回自然環境保全基礎調査 (平成 11～17 年、環境省)
 文献資料 6：「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)
 文献資料 7：「京都府鳥類目録 2016」(平成 28 年、日本野鳥の会京都支部)
 文献資料 8：「大阪府鳥類目録 2016」(平成 28 年、日本野鳥の会大阪支部)

② 対象事業実施区域周辺で確認されている動物の生息状況

対象事業実施区域周辺（枚方市大字尊延寺）において、枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設に当たり平成5年及び平成10～11年、東部スポーツ公園整備に当たり平成23年に動植物調査（環境影響評価）が実施されている。また、枚方市では、昭和63年からほぼ5年ごとに自然環境調査が実施されており、平成23～24年にかけて第5回自然環境調査（枚方ふるさといきもの調査）が実施されている。これらの調査結果から重要種の情報を整理した。枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画及び東部スポーツ公園整備事業に係る動植物の調査範囲を図2-2.13に示す。また、枚方ふるさといきもの調査については、枚方市内全域で調査が実施されており、調査場所が対象事業実施区域周辺（穂谷、尊延寺、藤阪、長尾荒坂、津田、船橋川、穂谷川、市内のため池）と考えられる調査場所の調査結果を抽出した。

対象事業実施区域周辺における現地調査の概要（動物）を表2-2.29に示す。

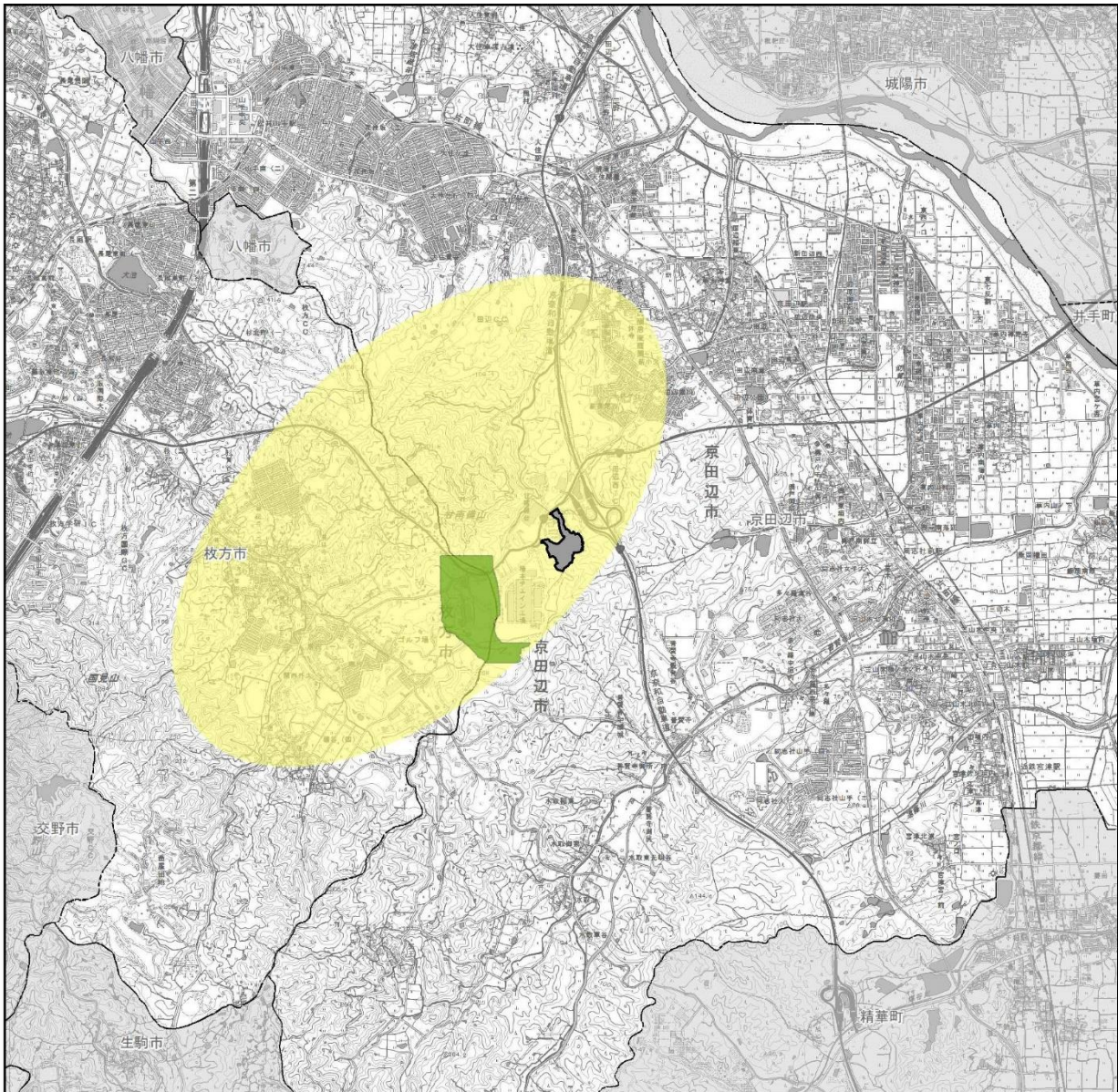
表 2-2.29 対象事業実施区域周辺における現地調査の概要（動物）

項目	調査季	文献資料		
		1	2	3
哺乳類	春	○	○	
	夏	○	○	○
	秋	○	○	○
	冬	○	○	○
鳥類	春	○	○	○
	夏	○	○	○
	秋	○	○	○
	冬	○	○	○
両生類・爬虫類	春	○	○	○
	初夏			○
	夏	○	○	○
	秋	○	○	
	冬	○		
昆虫類	春	○	○	○
	夏	○	○	○
	秋	○	○	○
魚類	春	○	○	○
	夏	○	○	○
	秋	○		○
	冬	○		
底生動物	早春		○	
	春	○		
	初夏		○	
	夏	○		
	秋	○		○
	冬	○		


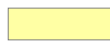

出典：文献資料1：「枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」（平成11年、枚方市）

文献資料2：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」（平成24年、枚方市）

文献資料3：「枚方ふるさといきもの調査報告書」（平成25年、枚方市）



凡 例

-  対象事業実施区域
-  枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書における調査範囲
-  東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書における調査範囲

出典：「枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」（平成11年、枚方市）
 ：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」（平成24年、枚方市）

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

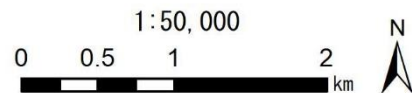


図 2-2.13 対象事業実施区域周辺の動植物調査状況

ア 哺乳類

対象事業実施区域周辺において、哺乳類は6目10科17種が確認されており、そのうち3目4科4種が重要種に該当した。哺乳類の重要種一覧を表 2-2. 30に示す。

哺乳類の重要種は、樹林を主な生息環境とするホンドザル、ススキやオギなどのイネ科草本群落が優占する草地に生息するカヤネズミ、樹林や草地に生息するホンドキツネ、水辺等を中心に幅広い環境を利用するホンDOIタチが確認された。

表 2-2. 30 対象事業実施区域周辺における哺乳類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	サル目 (霊長目)	オナガザル科	ホンドザル	3							注目	
2	ネズミ目 (齧歯目)	ネズミ科	カヤネズミ	1, 2, 3							準絶※1	NT
3	ネコ目 (食肉目)	イヌ科	ホンドキツネ	1, 3							注目	CR+EN※2
4		イタチ科	ホンDOIタチ	1								VU※3
合計	3目	4科	4種	—	0種	0種	0種	0種	0種	3種	3種	

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号) に基づく天然記念物に指定されている種 天然：天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号) において希少野生動植物種に指定されている種 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例 (平成 19 年京都府条例第 51 号) において指定希少野生生物に指定されている種 希少：指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例 (昭和 56 年京都府条例第 27 号) に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定：京都府指定天然記念物、登録：京都府登録天然記念物
- ⑤ 環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省) において選定されている種 CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府) において選定されている種 絶滅：絶滅種、寸前：絶滅寸前種、危惧：絶滅危惧種、準絶：準絶滅危惧種、注目：要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府) において選定されている種 EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注 3. 重要種の選定について

※1 ホンシュウカヤネズミ *Micromys minutus japonicus* での選定

※2 キツネ *Vulpes vulpes* での選定

※3 ニホンイタチ *Mustela itatsi* での選定

出典：文献資料 1：「枚方市ごみ処理施設 (仮称) 第 2 清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成 11 年、枚方市)

文献資料 2：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成 24 年、枚方市)

文献資料 3：「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成 25 年、枚方市)

イ 鳥類

対象事業実施区域周辺において、鳥類は15目35科93種が確認されており、そのうち9目18科30種が重要種に該当した。鳥類の重要種一覧を表 2-2. 31に示す。

鳥類の重要種は、草地や耕作地で繁殖するケリ、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカのほか、アマサギ、ノスリ、カシラダカ、オオジュリン等、草地やヨシ原、耕作地等を採餌場等として利用する種が多く含まれていた。そのほか、水面や水中で活動するカイツブリや、落葉広葉樹林に生息するセンダイムシクイ、人家周辺で繁殖するコシアカツバメも確認された。

表 2-2.31 対象事業実施区域周辺における鳥類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準								
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
1	カモ目	カモ科	オシドリ	3					DD	準絶			
2			ミコアイサ	3						準絶			
3	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	1,3						準絶			
4	ペリカン目	サギ科	アマサギ	1							VU		
5	ツル目	クイナ科	オオバン	3						準絶			
6	チドリ目	チドリ科	ケリ	1,2,3					DD		NT		
7			イカルチドリ	2,3						準絶	VU		
8			コチドリ	2,3								NT	
9		シギ科	タシギ	3								NT	
10			クサシギ	3							準絶	NT	
11			イソシギ	3							準絶	NT	
12			タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	3					NT	危惧	
13		タカ科		ツミ	3							危惧	VU
14				ハイタカ	3					NT	準絶		
15				オオタカ	3				希少		NT	危惧	NT
16	ノスリ			1,2,3							準絶	NT	
17	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	3							準絶		
18			アカゲラ	2,3								準絶	
19	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	2,3							危惧		
20			ハヤブサ	3			国内			VU	危惧		
21	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	1,2,3								NT	
22		ツバメ科	コシアカツバメ	1,2								NT	
23		ムシクイ科	センダイムシクイ	1,3								NT	
24		ヨシキリ科	オオヨシキリ	1,3								NT	
25		セッカ科	セッカ	1,2,3								NT	
26		ムクドリ科	コムクドリ	3								危惧	
27		ヒタキ科		トラツグミ	3							準絶	NT
28				クロツグミ	2								準絶
29			ホオジロ科	カシラダカ	1,2								NT
30				オオジュリン	1,3								
合計	9目	18科	30種	—	0種	1種	1種	0種	6種	19種	18種		

注1. 種名及び種の配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」に準拠した。

注2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づく天然記念物に指定されている種 天然：天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例（平成19年京都府条例第51号）において指定希少野生生物に指定されている種 希少：指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例（昭和56年京都府条例第27号）に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定：京都府指定天然記念物、登録：京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019」（平成31年、環境省）において選定されている種
CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧Ⅱ類、EN：絶滅危惧Ⅲ類、VU：絶滅危惧Ⅳ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック2015」（平成27年、京都府）において選定されている種
絶滅：絶滅種、寸前：絶滅寸前種、危惧：絶滅危惧種、準絶：準絶滅危惧種、注目：要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）において選定されている種
EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

出典：文献資料1：「枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」（平成11年、枚方市）

文献資料2：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」（平成24年、枚方市）

文献資料3：「枚方ふるさといきもの調査報告書」（平成25年、枚方市）

ウ 両生類

対象事業実施区域周辺において、両生類は2目7科10種が確認されており、そのうち2目6科8種が重要種に該当した。両生類の重要種一覧を表 2-2.32に示す。

両生類の重要種は、主に止水域に生息するアカハライモリや、水田等の水辺で活動するトノサマガエルやツチガエル、樹林や草地等を広く利用するニホンヒキガエルやニホンアカガエルなどが確認された。

表 2-2.32 対象事業実施区域周辺における両生類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	有尾目	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	3			希少		VU	寸前	CR+EN
2		イモリ科	アカハライモリ	1,3					NT	注目	NT
3	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	1,3						準絶	VU
4		アカガエル科	ニホンアカガエル	1,3						注目	VU
5			トノサマガエル	1,2,3					NT	注目	NT
6			ツチガエル	1,2,3						注目	NT
7		ヌマガエル科	ヌマガエル	1,2,3						注目	
8		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	1,2,3						注目	NT
合計	2目	6科	8種	—	0種	0種	1種	0種	3種	8種	7種

注1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版」(国土交通省)に準拠した。

注2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成19年京都府条例第51号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和56年京都府条例第27号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019」(平成31年、環境省)において選定されている種
CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック2015」(平成27年、京都府)において選定されている種
絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト2014」(平成26年、大阪府)において選定されている種
EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

出典:文献資料1:「枚方市ごみ処理施設(仮称)第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成11年、枚方市)

文献資料2:「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成24年、枚方市)

文献資料3:「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成25年、枚方市)

エ 爬虫類

対象事業実施区域周辺において、爬虫類は2目7科12種が確認されており、そのうち2目4科8種が重要種に該当した。爬虫類の重要種一覧を表 2-2. 33に示す。

爬虫類の重要種は、ニホンイシガメ、クサガメといった河川等の水辺を中心に活動するカメ類や、ジムグリ、ヒバカリといった樹林等に生息するヘビ類が確認された。

表 2-2. 33 対象事業実施区域周辺における爬虫類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	1, 3					NT	注目	NT
2			クサガメ	1, 2, 3						注目	
3	有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ	1, 2, 3						注目	
4		ナミヘビ科	アオダイショウ	1						注目	
5			ジムグリ	1, 3						注目	
6			ヒバカリ	1, 3						注目	VU
7			ヤマカガシ	1, 3						準絶	NT
8			クサリヘビ科	ニホンマムシ	1, 3						注目
合計	2目	4科	8種	—	0種	0種	0種	0種	1種	8種	3種

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)において希少野生動物種に指定されている種 国内:国内希少野生動物種、国際:国際希少野生動物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成 19 年京都府条例第 51 号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和 56 年京都府条例第 27 号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)において選定されている種 CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)において選定されている種 絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府)において選定されている種 EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

出典:文献資料 1:「枚方市ごみ処理施設(仮称)第 2 清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成 11 年、枚方市)

文献資料 2:「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成 24 年、枚方市)

文献資料 3:「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成 25 年、枚方市)

オ 昆虫類

対象事業実施区域周辺において、昆虫類は17目198科1,092種が確認されており、そのうち8目36科60種が重要種に該当した。昆虫類の重要種一覧を表 2-2. 34に示す。

昆虫類の重要種は、トンボ目が17種と最も多く、次いでチョウ目が11種、コウチュウ目が9種、バッタ目及びハチ目が8種等であった。トンボ目やヤスマツアメンボ、ミズスマシ、ゲンジボタルといった水辺環境との関わりが強い種のほか、ショウリョウバッタモドキ等の草原に生息する種、ミドリシジミやモンズズメバチといった樹林に生息する種など、多様な環境を利用する種が確認された。

表 2-2. 34(1) 対象事業実施区域周辺における昆虫類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	トンボ目 (蜻蛉目)	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	1					EN	危惧	CR+EN	
2			オツネイトンボ	1						準絶	NT	
3		イトトンボ科	ホソミイトトンボ	1							NT	
4			キイトトンボ	1							NT	
5			モートンイトトンボ	1					NT	準絶	CR+EN	
6		ヤンマ科	カトリヤンマ	1, 3						注目	NT	
7			サラサヤンマ	1							NT	
8		サナエトンボ科	ウチワヤンマ	3							NT	
9			フタスジサナエ	1, 3					NT	注目	NT	
10			オグマサナエ	1					NT	注目	VU	
11		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	1						準絶	NT	
12		トンボ科	ヨツボシトンボ	1							NT	
13			ナツアカネ	1, 3							NT	
14			アキアカネ	1, 3							NT	
15			ノシメトンボ	1, 2, 3							NT	
16			マイコアカネ	1							注目	NT
17			ミヤマアカネ	1							準絶	NT
18	カマキリ目 (螳螂目)	カマキリ科	チョウセンカマキリ	1, 2, 3						注目 ^{※1}		
19	バッタ目 (直翅目)	クツワムシ科	クツワムシ	1, 3							NT	
20		ケラ科	ケラ	1						注目		
21		カネタタキ科	アシジマカネタタキ	2							DD	
22		バッタ科	クルマバッタ	1							注目	
23			ショウリョウバッタモドキ	1, 3							注目	
24			ナキイナゴ	2								VU
25	イナゴ科	ヤマトフキバッタ	1, 2, 3							注目 ^{※2}		
26		セグロイナゴ	2							危惧	VU ^{※3}	
27	カメムシ目 (半翅目)	セミ科	ハルゼミ	1, 3							NT	
28		アメンボ科	ヤスマツアメンボ	1, 3							NT	
29		ミズカメムシ科	ムモンミズカメムシ	3							NT	
30	チョウ目 (鱗翅目)	セセリチョウ科	ミヤマセセリ	1							NT	
31			ホソバセセリ	1								NT
32			ギンイチモンジセセリ	2					NT	危惧	EX	
33			ミヤマチャバネセセリ	1								CR+EN
34			オオチャバネセセリ	1, 3								NT
35		シジミチョウ科	ミドリシジミ	1							NT	
36		ツバメガ科	ギンツバメ	1, 3							注目	
37		ヒトリガ科	ヤネホソバ	1					NT			
38		ドクガ科	スゲドクガ	2					NT		NT	
39		ヤガ科	コシロシタバ	3					NT			
40	シロシタバ		3								NT	
41	ハエ目 (双翅目)	ガガンボ科	ミカドガガンボ	3						注目		
42		ムシヒキアブ科	アオメアブ	3							注目	
43			オオイシアブ	1							注目	
44	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	クロカタビロオサムシ	3						注目		
45		ハンミョウ科	ナミハンミョウ	1, 3						危惧	NT ^{※4}	
46		ミズスマシ科	オオミズスマシ	1					NT	注目	VU	

表 2-2. 34(2) 対象事業実施区域周辺における昆虫類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
47	コウチュウ目 (鞘翅目)	ミズスマシ科	ミズスマシ	1					VU	危惧	VU
48		コガネムシ科	ドウガネブイブイ	1, 2							NT
49		コメツキムシ科	コガタヒメサビキコリ	1						注目	
50		ホタル科	ゲンジボタル	1						注目	
51			ヘイケボタル	1						注目	NT
52		ゴミムシダマシ科	マルツヤニジゴミムシダマシ	1						注目	
53	ハチ目 (膜翅目)	コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ	3					DD		
54		セイボウ科	イワタセイボウ	2							DD
55			オオセイボウ	1					DD		
56		アリ科	ケブカツヤオオアリ	2					DD		
57		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	3					DD		
58			モンズズメバチ	1					DD		
59		アナバチ科	フジジガバチ	1					NT		
60		ミツバチ科	トラマルハナバチ本土亜種	3						準絶 ^{*5}	
合計	8目	36科	60種	—	0種	0種	0種	0種	16種	29種	38種

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然：天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成 19 年京都府条例第 51 号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少：指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和 56 年京都府条例第 27 号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定：京都府指定天然記念物、登録：京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)において選定されている種
CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)において選定されている種
絶滅：絶滅種、寸前：絶滅寸前種、危惧：絶滅危惧種、準絶：準絶滅危惧種、注目：要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府)において選定されている種
EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注 3. 重要種の選定について

- ※1 カマキリ *Tenodera angustipennis* での選定
- ※2 バッタ科ミヤマフキバッタ種群 *Parapodisma* spp.での選定
- ※3 セグロバッタ *Shirakiacris shirakii* での選定
- ※4 ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* での選定
- ※5 トラマルハナバチ *Bombus diversus* での選定

出典：文献資料 1：「枚方市ごみ処理施設(仮称)第 2 清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成 11 年、枚方市)

文献資料 2：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成 24 年、枚方市)

文献資料 3：「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成 25 年、枚方市)

カ 魚類

対象事業実施区域周辺において、魚類は5目9科25種が確認されており、そのうち3目4科5種が重要種に該当した。魚類の重要種一覧を表 2-2.35に示す。

魚類の重要種は、タモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ等、流れの緩い小川や水路や水田等の里地周辺でみられる種が確認された。

表 2-2.35 対象事業実施区域周辺における魚類の重要種一覧

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	コイ目	コイ科	タモロコ	3							NT
2			ゼゼラ	3					VU	危惧	VU
3		ドジョウ科	ドジョウ	3					NT		VU
4	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	1, 2, 3					VU	危惧	VU
5	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ	3							NT
合計	3目	4科	5種	-	0種	0種	0種	0種	3種	2種	5種

注1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版」(国土交通省)に準拠した。

注2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成19年京都府条例第51号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和56年京都府条例第27号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019」(平成31年、環境省)において選定されている種
CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧IV類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック2015」(平成27年、京都府)において選定されている種
絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト2014」(平成26年、大阪府)において選定されている種
EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

出典:文献資料1:「枚方市ごみ処理施設(仮称)第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成11年、枚方市)

文献資料2:「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成24年、枚方市)

文献資料3:「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成25年、枚方市)

キ 底生動物

対象事業実施区域周辺において、底生動物は6綱16目41科68種が確認されており、そのうち2綱3目5科6種が重要種に該当した。底生動物の重要種一覧を表 2-2. 36に示す。

底生動物の重要種は、ヌマエビ、コガタシマトビケラ、コカクツツトビケラ等が確認された。ヌマエビは、水田や川のとどみで確認されている。コガタシマトビケラ及びコカクツツトビケラは河川に生息する種である。

表 2-2. 36 対象事業実施区域周辺における底生動物の重要種一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	文献資料	選定基準							
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ミナミノヌマエビ	3							注目	
2				ヌマエビ	1, 3							危惧	
3			モクズガニ科	モクズガニ	3								注目
4	昆虫綱	トンボ目 (蜻蛉目)	サナエトンボ科	キイロサナエ	2						NT	準絶	NT
5		トビケラ目	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	1							注目	
6		(毛翅目)	カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	1							注目	
合計	2綱	3目	5科	6種	-	0種	0種	0種	0種	1種	6種	1種	

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成 19 年京都府条例第 51 号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和 56 年京都府条例第 27 号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)において選定されている種
CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)において選定されている種
絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府)において選定されている種
EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

出典:文献資料 1:「枚方市ごみ処理施設(仮称)第 2 清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成 11 年、枚方市)

文献資料 2:「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成 24 年、枚方市)

文献資料 3:「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成 25 年、枚方市)

2) 植物

① 調査地域に生育する可能性のある重要種

京都府レッドデータブック2015における植物の分布状況を整理し、調査地域に生息する可能性のある重要種を抽出した。

京都府レッドデータブック2015の掲載種のうち、府内の分布区域に、「京田辺市」、「山城地域」、「木津川（淀川水系）」、「南部地域」、「府内全域」との記載があるものを抽出した。ただし、「府内全域」等の記載があっても、「局地的」や「ブナ林に生育する」等の説明があり、調査地域における生育情報としては不適切と考えられる種は除外した。なお、大阪府レッドリスト2014からは、掲載種の生育する地域についての情報が得られなかったため、文献の対象としなかった。

調査地域に生育する可能性のある重要種一覧（植物）を表 2-2. 37に示す。

植物は284種の重要種が確認された。大半は府内の分布区域として「山城地域」が挙げられている種であり、コバノカナワラビなどの林床性のシダ植物や、サンショウモ、マルバノサワトウガラシといった水田雑草として知られる種、ヒメクロモジやクロウメモドキといった低木種など、さまざまな種群が含まれていた。

京田辺市での生育情報が記載されている種として、ミカワシンジュガヤ、ウンヌケモドキといった湿地性の草本種が挙げられる。また、京都府の指定希少野生生物として、レンリソウ、フナバラソウの2種が記録されている。

なお、京都府レッドデータブック2015では、これらの維管束植物以外の重要種として、コケ植物のウキゴケ、ホソベリミズゴケ、オオカサゴケ、マツムラゴケ、ミヤマハイゴケ、イチョウウキゴケ、オオミズゴケ及び菌類のコトヒラシロテングタケが記載されている。

表 2-2. 37(1) 重要種一覧（植物）

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
シダ植物門	1	ヒカゲノカズラ科	マンネンスギ	1							危惧	
	2		オニトウゲシバ	1							注目	
	3	イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	1							危惧	
	4		タチクラマゴケ	1							注目	
	5	ミズニラ科	ミズニラ	1						NT	寸前	CR+EN
	6	ハナヤスリ科	アカハナワラビ	1							危惧	CR+EN
	7		コヒロハハナヤスリ	1							危惧	
	8	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	1							注目	
	9	ミズワラビ科	ハコネシダ	1							危惧	
	10		ヒメミズワラビ	1							注目	NT
	11	イノモトソウ科	アマクサシダ	1							危惧	
	12		マツザカシダ	1							準絶	
	13	チャセンシダ科	シモツケヌリトラノオ	1							注目	
	14		カミガモシダ	1							準絶	
	15		トキワトラノオ	1							危惧	
	16		イヌチャセンシダ	1							準絶	
	17		アオガネシダ	1							寸前	
	18		クルマシダ	1							危惧	
	19	シンガシラ科	コモチシダ	1							注目	
	20	オンダ科	ホソバナライシダ	1							注目	
	21		ミヤコカナワラビ	1							準絶	
	22		コバノカナワラビ	1							注目	
	23		ヤブソテツモドキ	1							注目	
	24		ナガバノイタチシダ	1							注目	
	25	ヒメシダ科	アオハリガネワラビ	1							注目	
	26	メシダ科	サキモリイヌワラビ	1							注目	
	27		ルリデライヌワラビ	1							準絶	
	28		ハコネシケチシダ	1							寸前	VU

表 2-2. 37(2) 重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
シダ植物門	29	メシダ科	コウライイヌワラビモドキ	1							寸前	
	30		ナチシケシダ	1							注目	
	31		フモトシケシダ	1							危惧	
	32		オオヒメワラビモドキ	1							準絶	
	33		ヒカゲワラビ	1							寸前	
	34		ウスバミヤマノコギリシダ	1							危惧	
	35		タンゴワラビ	1							注目	
	36		ウラボシ科	ヤノネシダ	1							準絶
	37	アオネカズラ		1							寸前	NT
	38	ピロードシダ		1							危惧	
	39	デンジソウ科	デンジソウ	1					VU	寸前	CR+EN	
	40	サンショウモ科	サンショウモ	1					VU	寸前	CR+EN	
	41	アカウキクサ科	アカウキクサ	1					EN	寸前	EX	
	42		オオアカウキクサ	1					EN	寸前	EX	
種子植物門	43	カバノキ科	サクラバハンノキ	1					NT	危惧		
	44	イラクサ科	キミズ	1						準絶	NT	
	45		ミヤコミズ	1						危惧	VU	
	46		ホソバイラクサ	1						注目	NT	
	47	ビャクダン科	カナビキソウ	1						準絶		
	48	ヤドリギ科	ヒノキバヤドリギ	1							危惧	
	49		マツグミ	1							準絶	
	50		ヤドリギ	1							危惧	
	51	タデ科	サイコクヌカボ	1					VU	寸前	CR+EN	
	52		サデクサ	1							準絶	NT
	53		オオネバリタデ	1							危惧	
	54		ヌカボタデ	1					VU	寸前	VU	
	55		ネバリタデ	1							危惧	
	56	ナデシコ科	ヤマハコベ	1							危惧	
	57	ヒユ科	ヤナギイノコズチ	1							寸前	NT
	58	マツブサ科	マツブサ	1							準絶	
	59	クスノキ科	ヒメクロモジ	1							注目	
	60	キンポウゲ科	イブキトリカブト	1							注目	
	61		ユキワリイチゲ	1							準絶	NT
	62		エンコウソウ	1							寸前	EX
	63		トウゴクサバノオ	1							準絶	
	64	ツツラフジ科	コウモリカズラ	1							準絶	
	65	スイレン科	ヒツジグサ	1							危惧	NT
	66	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	1							準絶	
	67		ヒメカンアオイ	1							危惧	CR+EN
	68	オトギリソウ科	トモエソウ	1							寸前	CR+EN
	69		ミズオトギリ	1							準絶	NT
	70	モウセンゴケ科	イシモチソウ	1					NT	寸前	VU	
	71		コモウセンゴケ	1							寸前	NT
	72		トウカイコモウセンゴケ	1							寸前	
	73	ケシ科	キケマン	1							準絶	
	74	アブラナ科	ミズタガラシ	1							準絶	VU
	75		コイヌガラシ	1					NT	危惧	NT	
	76	ベンケイソウ科	キリンソウ	1							準絶	
	77	ユキノシタ科	イワボタン	1							準絶	
	78		オオチャルメルソウ	1							危惧	
	79		ウメバチソウ	1							危惧	VU
	80		タコノアシ	1					NT	寸前	NT	
	81		ジンジソウ	1							準絶	
	82	バラ科	カワラサイコ	1							危惧	EX
	83		ヤマイバラ	1							準絶	
	84		ユキヤナギ	1							注目	VU
	85	マメ科	タヌキマメ	1							危惧	VU
	86		マルバナスビトハギ	1							準絶	
	87		ニワフジ	1							注目	

表 2-2. 37(3) 重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
種子植物門	88	マメ科	レンリソウ	1			希少			寸前		
	89		カラメドハギ	1						注目		
	90		イヌハギ	1					VU	寸前	CR+EN	
	91		マキエハギ	1						危惧	CR+EN	
	92		ツルフジバカマ	1						寸前	VU	
	93		オオバクサフジ	1						寸前	VU	
	94	トウダイグサ科	ヒトツバハギ	1						危惧		
	95	ミカン科	フユザンショウ	1						注目		
	96	クロウメモドキ科	クロウメモドキ	1						準絶		
	97	シナノキ科	カラスノゴマ	1						危惧		
	98	ジンチョウゲ科	コガンピ	1						準絶		
	99	グミ科	カツラギグミ	1					EN	危惧	VU	
	100	スマレ科	フモトスマレ	1						準絶		
	101	ミヅハコベ科	イヌミヅハコベ	1						準絶		
	102	ウリ科	キカラスウリ	1						注目		
	103	ミソハギ科	ヒメミソハギ	1						危惧	NT	
	104		ミズマツバ	1					VU	危惧	NT	
	105	ヒシ科	ヒメビシ	1					VU	寸前	EX	
	106		オニビシ	1						危惧		
	107	アカバナ科	ミズユキノシタ	1						注目		
	108	アリノトウグサ科	オグラノフサモ	1					VU	寸前	CR+EN	
	109		フサモ	1						寸前	CR+EN	
	110	ウコギ科	ミヤマウコギ	1						準絶		
	111	セリ科	ドクゼリ	1						準絶	VU	
	112	イチヤクソウ科	ウメガサソウ	1						危惧	NT	
	113		シャクジョウソウ	1						危惧	NT	
	114	ツツジ科	サラサドウダン	1						準絶		
	115		サツキ	1						危惧		
	116		レンゲツツジ	1						準絶		
	117	ヤブコウジ科	カラタチバナ	1						寸前		
	118	サクラソウ科	ミヤマタゴボウ	1						準絶		
	119	カキノキ科	リュウキュウマメガキ	1						準絶		
	120	マチン科	アイナエ	1						寸前	CR+EN	
	121	リンドウ科	リンドウ	1						注目		
	122		フデリンドウ	1						危惧		
	123		イヌセンブリ	1					VU	危惧	VU	
	124		センブリ	1						注目		
	125	ミツガシワ科	アサザ	1					NT	危惧	DD	
	126	キョウチクトウ科	チョウジソウ	1					NT	寸前	CR+EN	
	127		ケテイカズラ	1						準絶		
	128	ガガイモ科	フナバラソウ	1					希少	VU	寸前	CR+EN
	129		タチカモメヅル	1						準絶	VU	
	130		スズサイコ	1						NT	危惧	VU
	131		コバノカモメヅル	1							危惧	VU
	132	アカネ科	イナモリソウ	1						寸前	NT	
	133		カギカズラ	1						危惧		
134	ヒルガオ科	ハマヒルガオ	1						寸前 ^{**1}			
135	クマツヅラ科	コムラサキ	1						寸前	VU		
136		カリガネソウ	1						準絶			
137	シソ科	カワミドリ	1						準絶	NT		
138		エゾシロネ	1						危惧			
139		ハッカ	1						準絶			
140		ミゾコウジュ	1					NT	準絶	NT		
141		ホクリクタツナミソウ	1						準絶	DD		
142		イガタツナミソウ	1						準絶			
143	ゴマノハグサ科	マルバノサワトウガラシ	1					VU	寸前			
144		サワトウガラシ	1						危惧			
145		キクガラクサ	1					NT	危惧			
146		クチナシグサ	1						危惧			

表 2-2. 37(4) 重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
種子植物門	147	ゴマノハグサ科	コシオガマ	1						準絶		
	148		オオヒキヨモギ	1					VU	準絶	NT	
	149		イヌノフグリ	1					VU	危惧		
	150		カワヂシャ	1					NT	準絶	NT	
	151	キツネノマゴ科	オギノツメ	1						準絶		
	152	ハマウツボ科	ナンバンギセル	1						注目		
	153	タヌキモ科	ノタヌキモ	1					VU	危惧		
	154		イヌタヌキモ	1					NT	危惧	NT	
	155		ミミカキグサ	1						準絶		
	156		ホザキノミミカキグサ	1						準絶		
	157		ミカワタヌキモ	1					VU	寸前		
	158		タヌキモ	1					NT	寸前	CR+EN	
	159		ヒメタヌキモ	1					NT	寸前	CR+EN	
	160		ムラサキミミカキグサ	1					NT	寸前	CR+EN	
	161		オミナエシ科	オミナエシ	1						準絶	NT
	162		キキョウ科	ヤマホタルブクロ	1						危惧	
	163	サワギキョウ		1						準絶	NT	
	164	キク科	サワシロギク	1						準絶	CR+EN	
	165		アワコガネギク	1					NT	危惧		
	166		シマカンギク	1						危惧		
	167		ミツバヒヨドリバナ	1						注目 ^{**2}		
	168		スイラン	1						危惧	NT	
	169		オグルマ	1						危惧	CR+EN	
	170		ノニガナ	1						寸前		
	171	オモダカ科	ヘラオモダカ	1						準絶		
	172		アギナシ	1					NT	危惧	CR+EN	
	173		ウリカワ	1						準絶		
	174	トチカガミ科	マルミスブタ	1					VU	寸前	CR+EN	
	175		スブタ	1					VU	寸前	CR+EN	
	176		ヤナギスブタ	1						危惧	CR+EN	
	177		クロモ	1						注目		
	178		ミズオオバコ	1						VU	危惧	NT
	179		セキショウモ	1							危惧	EX
	180	ヒルムシロ科	イトモ	1					NT	寸前	CR+EN	
	181	イバラモ科	サガミトリゲモ	1					VU	寸前	CR+EN	
182	イトトリゲモ		1					NT	寸前	VU		
183	イバラモ		1						寸前	EX		
184	オオトリゲモ		1						寸前	CR+EN		
185	ユリ科	シライトソウ	1						準絶			
186		ノカンゾウ	1						危惧	VU		
187		ミズギボウシ	1						危惧	VU		
188	ヒガンバナ科	オオキツネノカミソリ	1						注目			
189		ナツズイセン	1						準絶			
190	ミズアオイ科	ミズアオイ	1					NT	寸前	CR+EN		
191	アヤメ科	ノハナショウブ	1						準絶	CR+EN		
192		カキツバタ	1					NT	準絶	DD		
193	イグサ科	ハナビゼキショウ	1						準絶			
194		ヒロハノコウガイゼキショウ	1						寸前			
195		タマコウガイゼキショウ	1						寸前			
196		ハリコウガイゼキショウ	1						準絶			
197	ホシクサ科	ホシクサ	1						注目	CR+EN		
198	イネ科	ヒメコヌカグサ	1					NT	準絶	CR+EN		
199		ヤマアワ	1						危惧			
200		オガルカヤ	1						準絶			
201		スズメガヤ	1						準絶			
202		オオニワホコリ	1						準絶			
203		ナルコビエ	1						危惧			
204		ウンヌケモドキ	1						NT	寸前	VU	
205		ムツオレグサ	1							準絶		

表 2-2. 37(5) 重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準									
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
種子植物門	206	イネ科	ウシノシツペイ	1							準絶			
	207		コウボウ	1								危惧		
	208		アシカキ	1								準絶		
	209		エゾノサヤヌカグサ	1								危惧		
	210		ミノボロ	1								準絶	VU	
	211		トキワススキ	1									注目	
	212		ヌマガヤ	1									危惧	
	213		ウシクサ	1									準絶	VU
	214		メガルカヤ	1									注目	
	215		シバ	1									注目	
	216		サトイモ科	キシダマムシグサ	1								危惧	
	217			ウラシマソウ	1								準絶	
	218		ウキクサ科	コウキクサ	1								準絶	
	219		ミクリ科	ヤマトミクリ	1						NT		危惧	VU
	220			ナガエミクリ	1						NT		寸前	VU
	221	ガマ科	コガマ	1								危惧	NT	
	222	カヤツリグサ科	ウキヤガラ	1								準絶		
	223		イトハナビテンツキ	1									危惧	
	224		ミノボロスゲ	1									危惧	
	225		ホザキマスキサ	1							VU		危惧	
	226		エナシヒゴクサ	1									寸前	
	227		マツバスゲ	1									注目	
	228		ハリガネスゲ	1									危惧	
	229		オニスゲ	1									準絶	
	230		イトスゲ	1									危惧	
	231		タニガワスゲ	1									準絶	
	232		ヤマアゼスゲ	1									準絶	
	233		ヤガミスゲ	1									準絶	NT
	234		ミコシガヤ	1									準絶	NT
	235		ヤチカワズスゲ	1									寸前	
	236		ヒメゴウソ (広義)	1									準絶	
	237		ヤブスゲ	1									危惧	
	238		サトヤマハリスゲ	1									危惧	CR+EN
	239		イヌクグ	1									準絶	
	240		ツルナシコアゼガヤツリ	1									注目	
	241		オオシロガヤツリ	1									注目	NT
	242		シロガヤツリ	1									準絶	DD
	243		シカクイ	1									準絶	
	244		ノテンツキ	1									準絶	
	245		ヒンジガヤツリ	1									準絶	
	246		イヌノハナヒゲ	1									準絶	
	247		コイヌノハナヒゲ	1									寸前	
	248		イガクサ	1									危惧	CR+EN
	249		フトイ	1									危惧	VU
	250		サンカクイ	1									注目	
	251		コマツカサススキ	1									危惧	NT
252	マツカサススキ		1									危惧	VU	
253	ミカワシンジュガヤ		1							VU		寸前	CR+EN	
254	コシンジュガヤ		1									寸前	VU	
255	ケシンジュガヤ	1									寸前	EX		
256	マネキシシンジュガヤ	1									寸前			
257	ラン科	シラン	1						NT		寸前	CR+EN		
258		マメヅタラン	1						NT		危惧	CR+EN		
259		エビネ	1						NT		注目	NT		
260		ギンラン	1									危惧	VU	
261		キンラン	1						VU			危惧	VU	
262		クマガイソウ	1						VU			寸前	CR+EN	
263		セッコク	1									危惧	CR+EN	
264		カキラン	1									準絶		

表 2-2. 37(6) 重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
種子植物門	265	ラン科	タシロラン	1					NT	注目	
	266		ツチアケビ	1						準絶	
	267		オニノヤガラ	1						準絶	
	268		クロヤツシロラン	1						危惧	NT
	269		アキザキヤツシロラン	1						注目	
	270		アケボノシュスラン	1						準絶	
	271		サギソウ	1					NT	寸前	VU
	272		ミズトンボ	1					VU	危惧	CR+EN
	273		ムヨウラン	1						寸前	NT
	274		クロムヨウラン	1						寸前	NT
	275		ジガバチソウ	1						危惧	CR+EN
	276		コ克蘭	1						注目	
	277		フウラン	1					VU	寸前	CR+EN
	278		ムカゴサイシン	1					EN	寸前	CR+EN
	279		ジンバイソウ	1						危惧	
	280		コバノトンボソウ	1						危惧	CR+EN
	281		トキシソウ	1					NT	危惧	CR+EN
	282		ヤマトキシソウ	1						寸前	CR+EN
283	カヤラン	1						準絶			
284	クモラン	1						寸前	CR+EN		
—	合計	90 科	284 種	—	0 種	0 種	2 種	0 種	60 種	284 種	123 種

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成 19 年京都府条例第 51 号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和 56 年京都府条例第 27 号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)において選定されている種
CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)において選定されている種
絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府)において選定されている種
EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

注 3. 重要種の選定について

※1 ハマヒルガオ府南部個体群 *Calystegia soldanella* (L.) R.Br.での選定

※2 ミツバヒヨドリ *Eupatorium tripartitum* での選定

出典:文献資料 1:「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)

② 対象事業実施区域周辺で確認されている植物の生育状況

ア 植物相

対象事業実施区域周辺（枚方市大字尊延寺）において、枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場の建設に当たり、平成5年及び平成10～11年にかけて動植物調査（環境影響評価）が実施されている。この調査結果から確認種及び重要種の情報を整理した。枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画及び東部スポーツ公園整備事業に係る動植物の調査範囲を図 2-2. 13に示す。また、枚方ふるさといきもの調査については、枚方市内全域で調査が実施されており、調査場所が対象事業実施区域周辺（穂谷、尊延寺、船橋川）と考えられる調査場所の調査結果を抽出した。

対象事業実施区域周辺における植物相の現地調査の概要を表 2-2. 38に示す。

表 2-2. 38 対象事業実施区域周辺における現地調査の概要（植物相）

項目	調査季	文献資料		
		1	2	3
植物	春	○	○	○
	夏	○	○	○
	秋	○	○	○
	冬			○
植生	—			○

出典：文献資料1：「枚方市ごみ処理施設（仮称）第2清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」（平成11年、枚方市）

文献資料2：「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」（平成24年、枚方市）

文献資料3：「枚方ふるさといきもの調査報告書」（平成25年、枚方市）

対象事業実施区域周辺において、植物は147科892種記録されており、そのうち35科65種が重要種に該当した。植物の重要種一覧を表 2-2. 39に示す。

植物の重要種は、草本が大半を占め、水生植物のコウホネ、ヒツジグサ、フサモ、コウキクサ、湿生植物のモウセンゴケ、カワヂシャ、フトイ、草原に生育するカナビキソウ、フデリンドウなど、比較的開けた環境に生育する種が大半を占めた。そのほか、クロヤツシロラン、コ克蘭など、樹林に生育するラン科植物も確認された。

表 2-2. 39(1) 対象事業実施区域周辺の重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
シダ植物門	1	イワヒバ科	イヌカタヒバ	3					VU		
	2	ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ	1						危惧	
	3	オシダ科	コバノカナワラビ	3						注目	
	4	デンジソウ科	デンジソウ	3					VU	寸前	CR+EN
種子植物門	5	ビャクダン科	カナビキソウ	1, 3						準絶	
	6	ヒユ科	ヤナギイノコズチ	3						寸前	NT
	7	スイレン科	コウホネ	1							VU
	8		ヒツジグサ	1, 3							NT
	9	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	2						準絶	
	10	モウセンゴケ科	モウセンゴケ	1, 3							NT
	11	ユキノシタ科	ウメバチソウ	3						危惧	VU
	12	バラ科	ユキヤナギ	3						注目	VU
	13	マメ科	カワラケツメイ	1							NT
	14	ジンチョウゲ科	コガンピ	1, 3						準絶	
	15	アカバナ科	ミズユキノシタ	3						注目	
	16	アリノトウグサ科	フサモ	1						寸前	CR+EN
	17	ツツジ科	シロバナウンゼンツツジ	3						絶滅	
	18	ヤブコウジ科	カラタチバナ	3						寸前	
	19	モクセイ科	ヤマトアオダモ	2						準絶	
	20	リンドウ科	リンドウ	1, 3						注目	
	21		フデリンドウ	1						危惧	
	22	ガガイモ科	スズサイコ	3					NT	危惧	VU
	23	ヒルガオ科	アオイゴケ	3						危惧	
	24	ゴマノハグサ科	クチナシグサ	3						危惧	
	25		コシオガマ	3						準絶	
	26	タヌキモ科	カワヂシャ	1, 3					NT	準絶	NT
	27		イヌタヌキモ	3					NT	危惧	NT
	28		タヌキモ	1					NT	寸前	CR+EN
	29	キキョウ科	サワギキョウ	3						準絶	NT
	30		キキョウ	1					VU	寸前	VU
	31	キク科	サワシロギク	3						準絶	CR+EN
	32		スイラン	3						危惧	NT
	33		オグルマ	3						危惧	CR+EN
	34	トチカガミ科	クロモ	3						注目	
	35		ミズオオバコ	3					VU		NT
	36	ユリ科	ミズギボウシ	3						危惧	VU
	37		ヤマカシュウ	1						準絶	NT
	38	ヒガンバナ科	ナツズイセン	3						準絶	
	39	イグサ科	ハナビゼキショウ	3						準絶	
	40		ハリコウガイゼキショウ	1						準絶	
	41	イネ科	ヤマアワ	1, 2, 3						危惧	
	42		オガルカヤ	3						準絶	
	43		ウシノシツペイ	3						準絶	
	44		アシカキ	1						準絶	
	45		スズメノコビエ	3						危惧	VU
	46		メガルカヤ	1, 3						注目	
	47		シバ	2, 3						注目	
	48	サトイモ科	ウラシマソウ	3						準絶	
	49	ウキクサ科	コウキクサ	1, 3						準絶	
	50	ミクリ科	ナガエミクリ	3					NT	寸前	VU
	51	カヤツリグサ科	ヌカスゲ	3						準絶	
	52		ノゲヌカスゲ	3						注目	
	53		ミコシガヤ	3						準絶	NT
	54		シカクイ	1, 3						準絶	
	55		ノテンツキ	1, 2, 3						準絶	
	56		ヒンジガヤツリ	3						準絶	
	57		フトイ	1, 3						危惧	VU
	58		コマツカサススキ	3						危惧	NT
	59		コシンジュガヤ	3						寸前	VU
	60	ラン科	ギンラン	1, 2, 3						危惧	VU

表 2-2. 39(2) 対象事業実施区域周辺の重要種一覧 (植物)

項目	No.	科名	種名	文献資料	選定基準							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
種子植物門	61	ラン科	カキラン	3							準絶	
	62		クロヤツシロラン	1, 3							危惧	NT
	63		コ克蘭	1, 2, 3							注目	
	64		フウラン	3						VU	寸前	CR+EN
	65		ヒトツボクロ	3							危惧	VU
—	合計	35 科	65 種	—	0 種	0 種	0 種	0 種	10 種	59 種	31 種	

注 1. 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度版」(国土交通省)に準拠した。

注 2. 重要種の選定基準

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく天然記念物に指定されている種 天然:天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種
- ③ 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例(平成 19 年京都府条例第 51 号)において指定希少野生生物に指定されている種 希少:指定希少野生生物
- ④ 京都府文化財保護条例(昭和 56 年京都府条例第 27 号)に基づく天然記念物に指定または登録されている種 指定:京都府指定天然記念物、登録:京都府登録天然記念物
- ⑤ 「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)において選定されている種 CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑥ 「京都府レッドデータブック 2015」(平成 27 年、京都府)において選定されている種 絶滅:絶滅種、寸前:絶滅寸前種、危惧:絶滅危惧種、準絶:準絶滅危惧種、注目:要注目種
- ⑦ 「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年、大阪府)において選定されている種 EX:絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

出典:文献資料 1:「枚方市ごみ処理施設(仮称)第 2 清掃工場建設計画に係る環境影響評価書」(平成 11 年、枚方市)

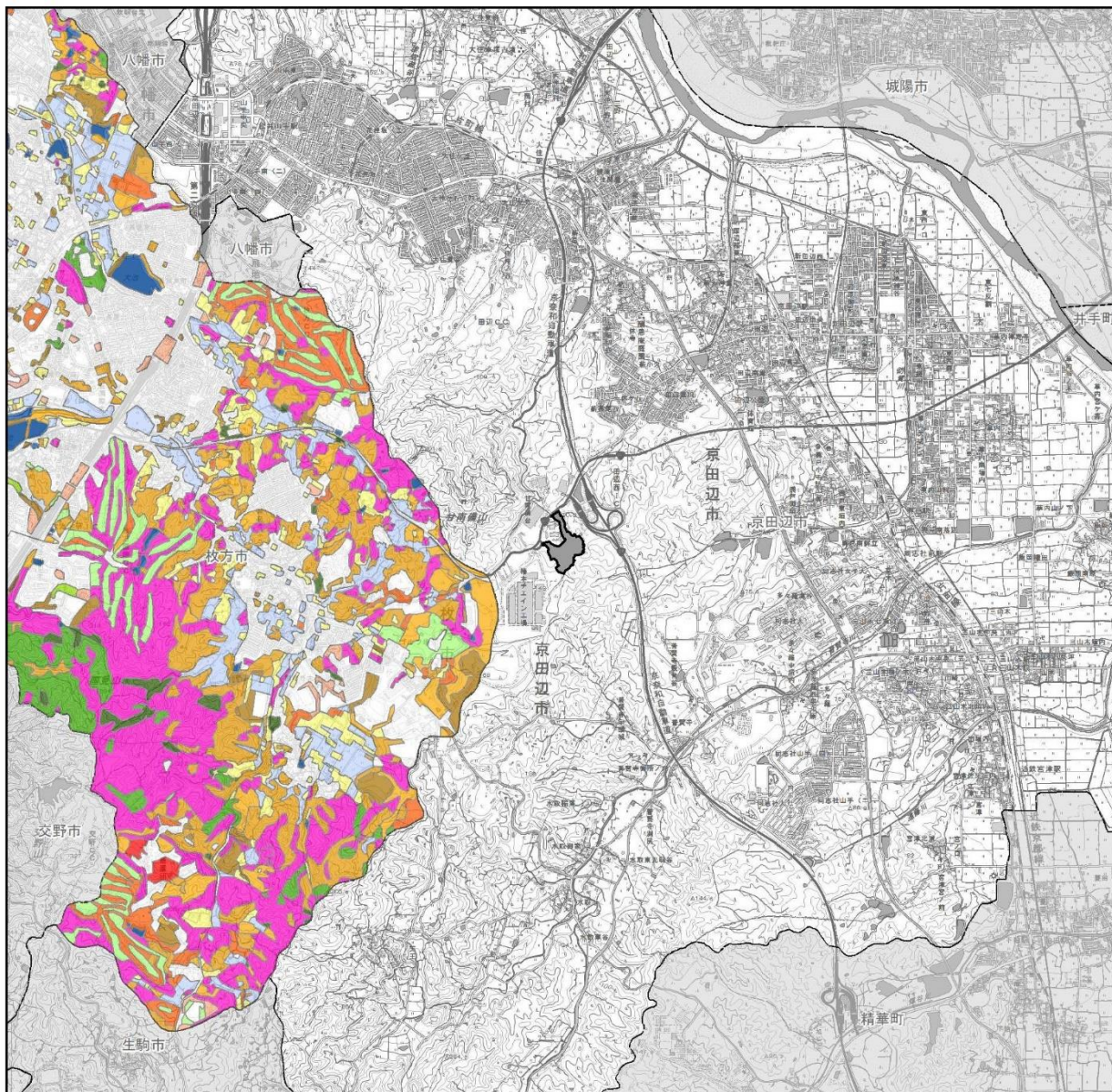
文献資料 2:「東部スポーツ公園整備事業に係る環境影響評価書」(平成 24 年、枚方市)

文献資料 3:「枚方ふるさといきもの調査報告書」(平成 25 年、枚方市)











イ 相観植生

枚方ふるさといきもの調査における現存相観植生図を図 2-2. 14に示す。

調査地域周辺は、枚方市南東部に位置する丘陵地帯となっている。市街地と水田、畑地が広く分布しており、山地の植生はコナラ林とアカマツ林、アラカシ林、竹林など里山の樹林が多くみられるほか、ゴルフ場（低草草本、芝草地）も数カ所に位置している。なお、京田辺市との府境付近では、一部の山地でコナラ林や竹林などの樹林植生がみられるが、公園（高茎草本、低草草本、造成直後の裸地など）、ゴルフ場（低草草本、芝草地）などの土地利用が多くなっている。



凡 例

- | | | | |
|---|----------|---|---------|
|  | 対象事業実施区域 | | |
|  | アラカシ林 |  | 芝草地 |
|  | コナラ林 |  | 園地型植栽 |
|  | アカマツ林 |  | 伐採跡地 |
|  | 植林 |  | 水田 |
|  | 竹林 |  | 畑地 |
|  | ニセアカシア林 |  | 造成直後の裸地 |
|  | 高茎草本 |  | 水域 |
|  | 低茎草本 |  | 市街地 |

出典：「枚方ふるさといきもの調査報告書」（平成 25 年、枚方市）
「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

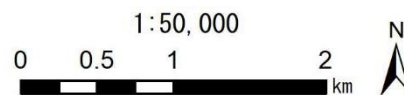


図 2-2.14 現存相観植生図（枚方ふるさといきもの調査）

③ 植生

調査地域周辺の現存植生図を図 2-2. 15に示す。

調査地域周辺は、木津川及び淀川の流域に形成された平野部に成立した市街地や耕作地と、大阪府と京都府の府境に当たる丘陵地に残存する山林が接する地域となっている。「第6回自然環境保全基礎調査（現存植生図）」（平成11～24年、環境省）によると、植生は、平地の市街地や水田と丘陵地の樹林がモザイク状に分布しており、丘陵地の一部はゴルフ場、公園等として利用されている。丘陵地では、落葉広葉樹林のアベマキ-コナラ群集が優占するが、山裾を中心に竹林が広く分布している。そのほか、部分的にモチツツジ-アカマツ群集やスギ・ヒノキ・サワラ植林がみられる。

④ 植物群落

調査地域周辺の重要な植物群落一覧を表 2-2. 40に、重要な植物群落を図 2-2. 16に示す。

「第2回自然環境保全基礎調査（特定植物群落調査）」（昭和54年、環境庁）によると、特定植物群落として、枚方市の「菅原神社のシイ林」と京田辺市の「木津川河川敷のツルヨシ、セイコノヨシ群落」が挙げられる。調査地域の西側に位置する「菅原神社のシイ林」は、暖温帯常緑広葉高木林に区分され、郷土景観を代表する植物群落として指定されている。調査地域の東側に位置する「木津川河川敷のツルヨシ、セイコノヨシ群落」は、河辺植生に区分され、特殊な立地に特有な植物群落として指定されている。また、京都府レッドデータブック2015において地域生態系として指定されたコナラ群落及びアカマツ群落（表 2-2. 42参照）は、京田辺市多々羅に分布しており、「管理維持」として指定されている。

表 2-2. 40 調査地域の重要な植物群落一覧

番号	群落名	所在地	文献
1	菅原神社のシイ林	枚方市	①
2	木津川河川敷のツルヨシ、セイコノヨシ群落	京田辺市	①
-	コナラ群落	京田辺市多々羅	②、③
-	アカマツ群落	京田辺市多々羅	②、③

注. 番号は、図 2-2. 16 に対応している。

出典：①「第2回自然環境保全基礎調査（特定植物群落調査）」（昭和54年、環境庁）

：②「京都府自然環境目録2015」（平成27年、京都府）

：③「京都府レッドデータブック2015」（平成27年、京都府）

⑤ 巨樹・巨木林

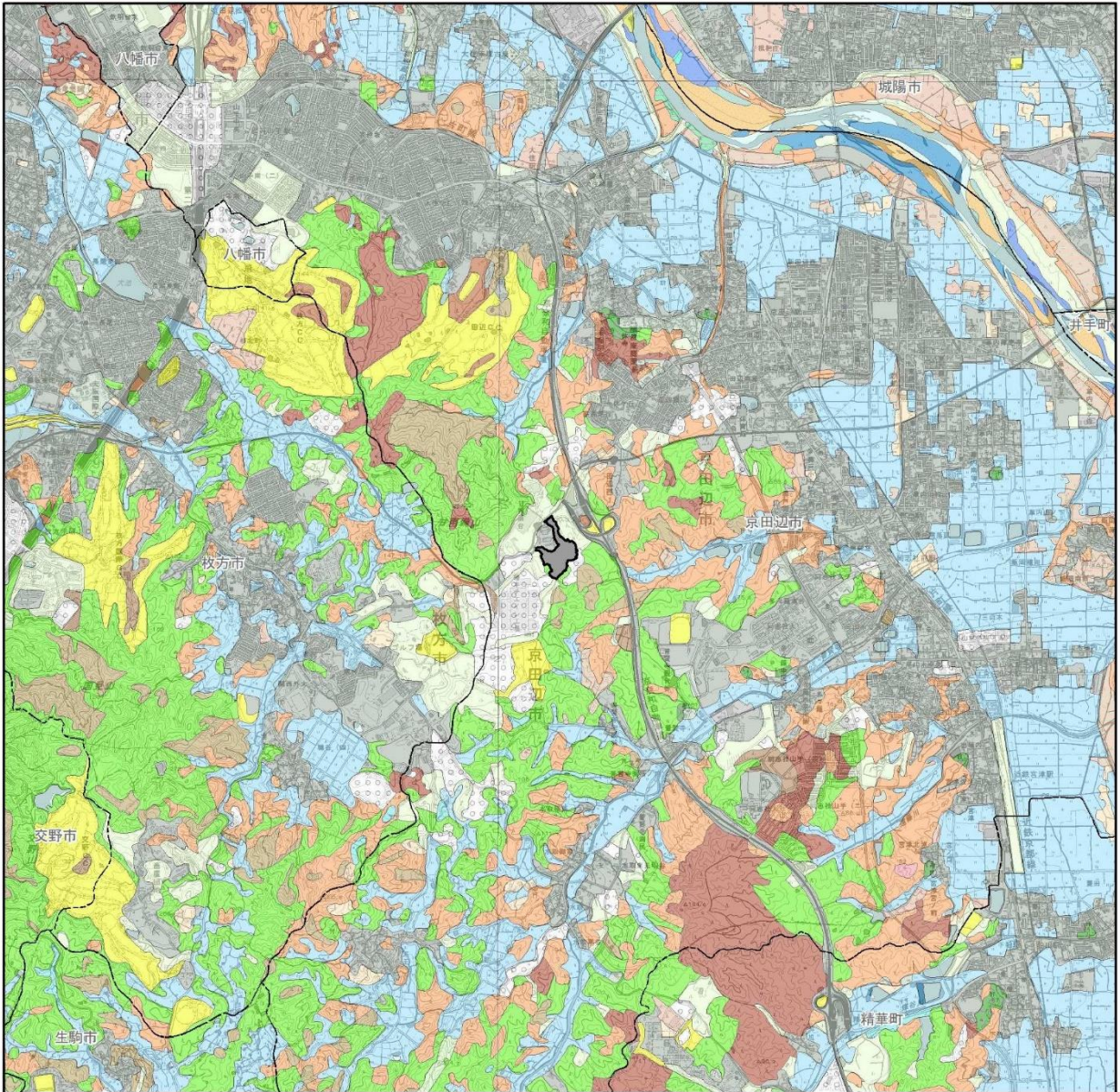
調査地域周辺の巨樹・巨木林一覧を表 2-2. 41に、巨樹・巨木林位置を図 2-2. 17に示す。ケヤキやモチノキなどが京田辺市に分布している。

表 2-2. 41 調査地域の巨樹・巨木林一覧

番号	種名	幹周 (cm)	樹高 (m)	地名	市
1	ケヤキ	335	34	田辺棚倉孫神社	京田辺市
2	ケヤキ	302	21	多々羅	京田辺市
3	モチノキ	303	27	天王朱智神社	京田辺市

注. 番号は、図 2-2. 17 に対応している。

出典：「第4回自然環境保全基礎調査（巨樹・巨木林調査）」（平成2年、環境庁）



凡例 出典：「第6回・第7回自然環境保全基礎調査（現存植生図）」（平成11～24年、環境省）

「電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成」

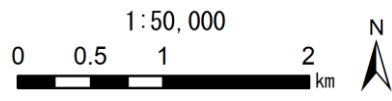
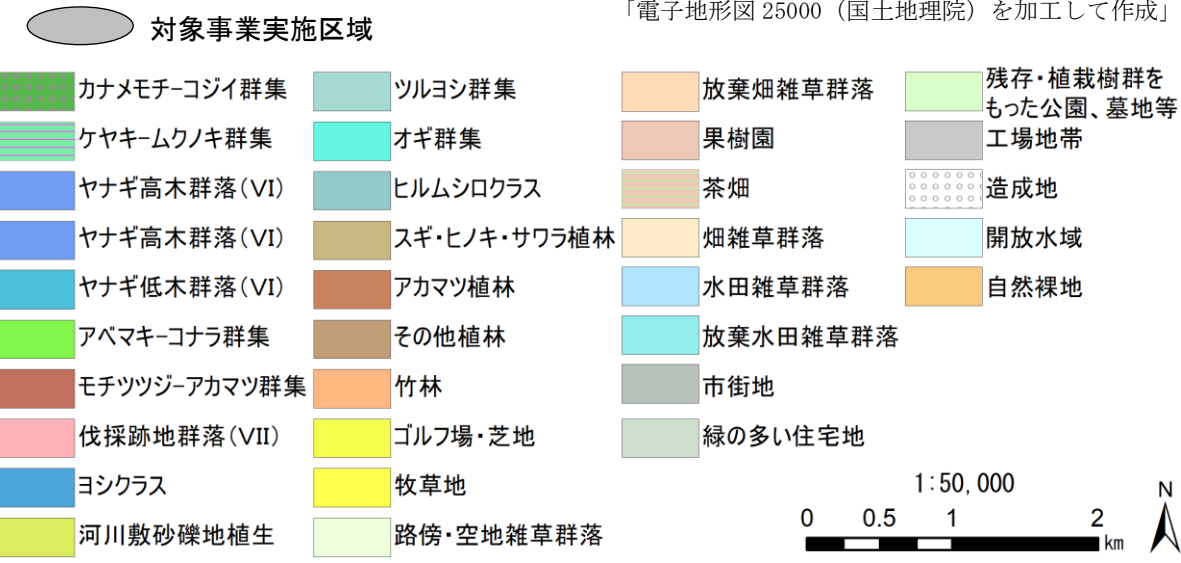




図 2-2.15 現存植生図



凡 例

-  対象事業実施区域
-  特定植物群落

出典：「第2回自然環境保全基礎調査（特定植物群落調査）」（昭和54年、環境庁）
「電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成」

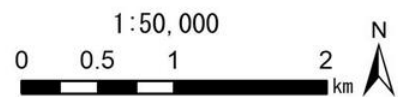


図 2-2.16 重要な植物群落位置図



凡 例

● 対象事業実施区域

● 巨樹・巨木林

出典：「第4回自然環境保全基礎調査（巨樹・巨木林調査）」（平成2年、環境庁）

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

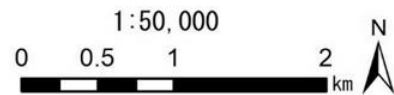


図 2-2.17 巨樹・巨木林位置図

3) 生態系

① 生態系の概要

調査地域周辺は、日本の気候区分によると瀬戸内気候区に属しており、潜在植生はヤブツバキクラス域の常緑広葉樹林である。しかし、現存植生図では、大半が代償植生となっており、落葉広葉樹二次林であるアベマキ-コナラ群集や、モウソウチク等が優占する竹林及び公園等、人為的な影響を受けた植生が分布している。また、水田、小規模なため池等の水域も広くみられることから、代償植生及び水辺環境を基盤とした里地・里山の生態系と考えられる。

樹林は、優占するコナラ、アベマキといった高木性の落葉広葉樹のほか、シロダモ、ヒサカキといった低木種や、ヤマイタチシダ、ナキリスゲ、コ克蘭といった草本種が分布している。また、水田やため池等の周辺の湿地や草地では、ヨシやススキなどの大型草本、ツリガネニンジン、ノアザミ、セリ、フトイといった多様な草本種が生育している。

これらの植生を基盤として、哺乳類のアカネズミ、カヤネズミ、鳥類のホオジロ、カワラヒワ、両生類のニホンアマガエルやトノサマガエル、昆虫類のショウリョウバッタやヤマトシジミ、魚類のカワムツやミナミメダカといった小動物が生息する。さらに、それらの動物を捕食する中型哺乳類のホンドキツネや、鳥類のアオサギ、サシバ等が生態系の上位種として位置づけられる。

② 重要な生態系

調査地域周辺の重要な生態系一覧を表 2-2. 42に示す。このうち、京田辺市多々羅のコナラ群落及びアカマツ群落は京都府レッドデータブック2015、穂谷・尊延寺及び淀川ワンド群は大阪府レッドリスト2014で選定されている重要な生態系である。対象事業実施区域及びその周辺では、重要な生態系は確認されなかった。

表 2-2. 42 重要な生態系一覧

名称	群落名	地点名	所在地	京都府 RDB	大阪府 RL
暖温帯落葉広葉樹林	コナラ群落	多々羅	京田辺市多々羅	管理維持	
温帯針葉樹林	アカマツ群落	多々羅	京田辺市多々羅	管理維持	
穂谷・尊延寺	-	-	枚方市		A ランク
淀川ワンド群（城北・庭窪・楠葉など）	-	-	大阪市・守口市・寝屋川市・枚方市・高槻市		A ランク

注1. 京都府 RDB：「京都府レッドデータブック 2015」掲載種

要特別対策、要保全対策、管理維持

注2. 大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」掲載種

A ランク：多様な生物種群の絶滅危惧種にとっての生存基盤となっている重要な生息地

B ランク：A ランクに準ずる生息地

C ランク：一部の絶滅危惧種に限られるが、その生存基盤となっている生息地

注3. 所在地は、出典に記載されているものであり、調査地域外の地名も含む。

出典：「京都府自然環境目録 2015」（平成 27 年、京都府）

：「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年、大阪府）

：「京都府レッドデータブック 2015」（平成 27 年、京都府）

(6) 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1) 景観の状況

調査地域周辺の主要な眺望点一覧を表 2-2. 43に、景観資源一覧を表 2-2. 44に、主要な眺望点及び景観資源位置を図 2-2. 18に示す。

調査地域周辺の主要な眺望点としては、対象事業実施区域の北側に位置する甘南備山、南西側に位置する国見山及び東側に位置する飯岡丘陵があげられる。

調査地域周辺の景観資源としては、主要な眺望点である甘南備山及び国見山のハイキングコースや、京都の自然200選に記載されている飯岡丘陵などがあげられる。

表 2-2. 43 調査地域周辺の主要な眺望点一覧

番号	名称	出典
1	甘南備山	①、③
2	国見山	②
3	飯岡丘陵	①

注. 番号は、図 2-2. 18 (赤字) に対応している。

出典：①「京都の自然 200 選」(京都府ホームページ)

：②「きてみてひらかたマップ 枚方八景」(枚方市ホームページ)

：③「甘南備山マップ」(平成 25 年、公益社団法人薪甘南備山保存会)

表 2-2. 44 調査地域周辺の景観資源一覧

番号	名称	分類	出典
1	一休寺	景観(花)	③
2	甘南備山	ハイキングコース・眺望点	①、④
3	国見山	ハイキングコース・眺望点	②
4	飯岡丘陵	地形・地質	①
5	虚空蔵谷の滝	地形・地質	①
6	草路城跡	歴史的な自然環境	①

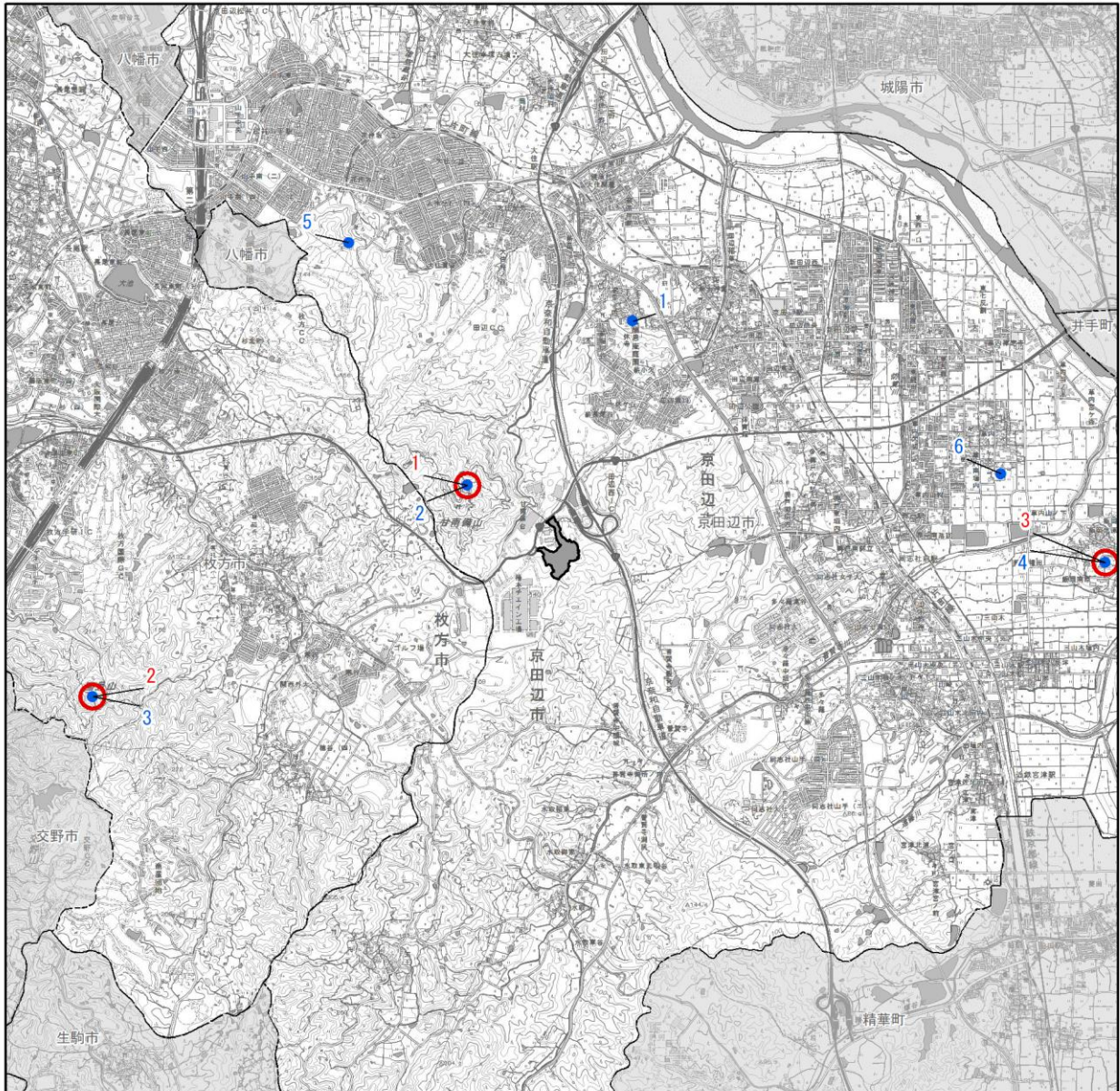
注. 番号は、図 2-2. 18 (青字) に対応している。

出典：①「京都の自然 200 選」(京都府ホームページ)




：②「きてみてひらかたマップ 枚方八景」(枚方市ホームページ)

：③「四季の見どころ花散歩」(京都府・市町村共同統合型地理情報システム GIS)

：④「甘南備山マップ」(平成 25 年、公益社団法人薪甘南備山保存会)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  主要な眺望点
-  景観資源

出典：「京都の自然 200 選」（京都府ホームページ）
 ：「きてみてひらかたマップ 枚方八景」（枚方市ホームページ）
 ：「四季の見どころ花散歩」（京都府・市町村共同統合型地理情報システム GIS）
 ：「甘南備山マップ」（平成 25 年、公益社団法人薪甘南備山保存会）

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

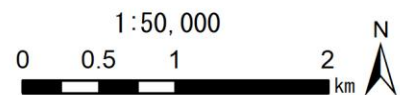


図 2-2.18 主要な眺望点及び景観資源位置図

2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

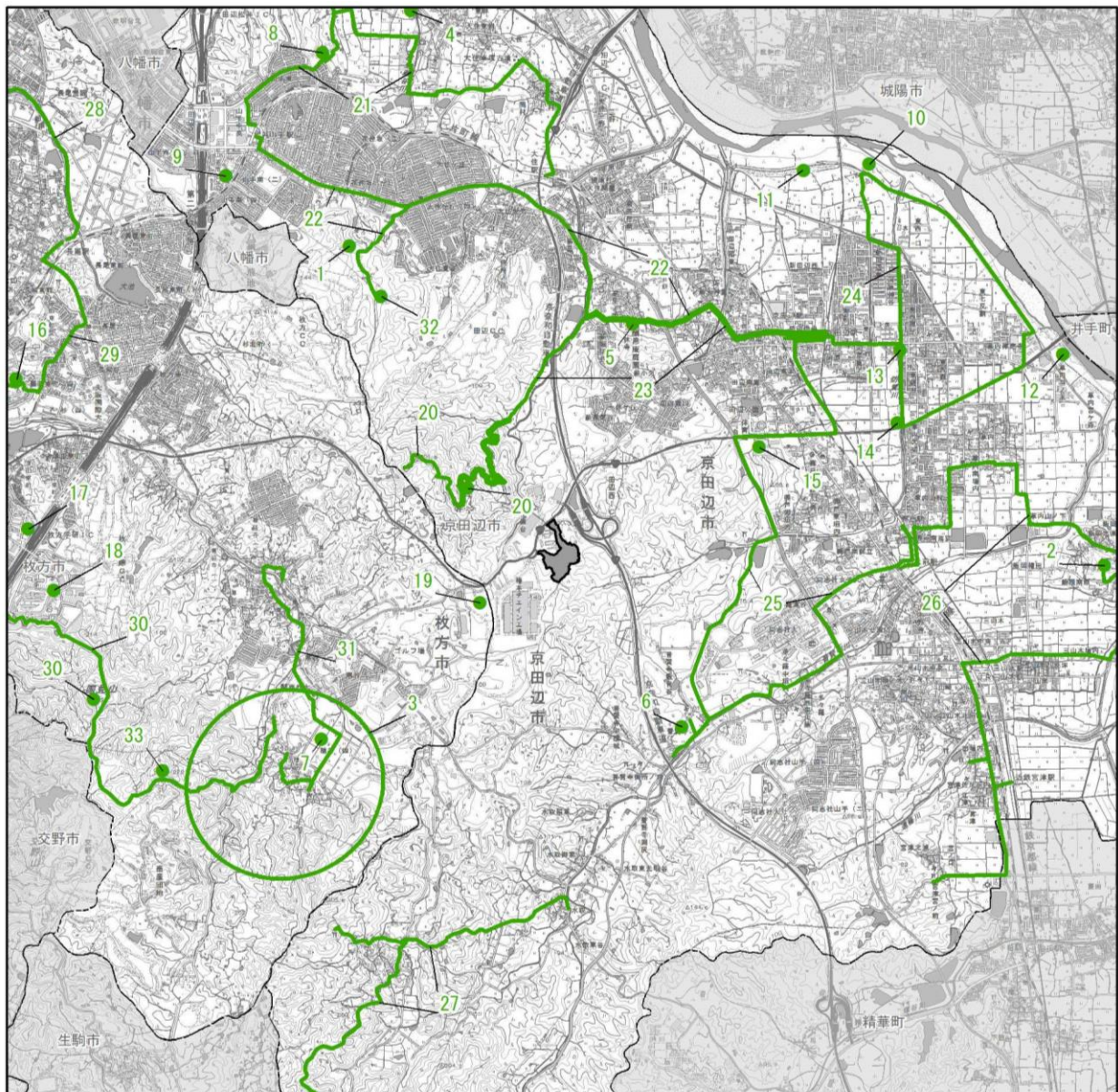
調査地域周辺の人と自然との触れ合いの活動の状況を表 2-2. 45に、人と自然との触れ合いの活動の場を図 2-2. 19に示す。対象事業実施区域の北側に位置する甘南備山や、西側に位置する国見山などにはハイキングコースがある。また、京田辺市野外活動センターや枚方市野外活動センターは、キャンプ場などレクリエーション施設として利用されている。そのほか、調査地域の北東を流れる木津川の河川敷には運動公園、防賀川沿いには緑道があり、その中心部にスポーツ施設を併設した防賀川公園がある。

表 2-2. 45 調査地域の人と自然との触れ合いの活動の状況



番号	名称	分類	出典
1	虚空蔵谷の滝	地形・地質	①、⑨
2	飯岡丘陵		①、②
3	穂谷の里山		⑩、⑪
4	虚空蔵谷川	景観(花)	⑨
5	一休寺		⑨
6	観音寺		⑨
7	コスモス畑(穂谷地区東部ほ場)		⑩
8	諏訪ヶ原公園		③、⑨
9	ふわふわ公園	公園	③
10	田辺木津川運動公園		③、⑨
11	田辺木津川つつみ緑地		⑨
12	草内木津川運動公園		③
13	防賀川緑道		③
14	防賀川公園		③、⑨
15	田辺公園		③、⑨
16	王仁公園		⑤、⑬
17	くにみの丘公園		⑫
18	空見の丘公園		⑫
19	枚方市東部公園	⑧	
20	甘南備山	ハイキング コース・散策 コース	⑦、⑨
21	いにしえやまのてコース		⑨
22	やまのていっきゅうコース		⑨
23	やすらぎいっきゅうコース		⑨
24	ふるさとみずべコース		⑨
25	ふれあいまなびやコース		⑨
26	かわかぜちやどころコース		⑨
27	こもれびやまざとコース		⑨
28	船橋川自然巡回路コース		⑭
29	長尾～藤坂コース		⑭
30	津田・国見山・穂谷三之宮コース		⑭
31	氷室周辺コース		⑭
32	京田辺市野外活動センター (竜王こどもの王国)	キャンプ場	④、⑨
33	枚方市野外活動センター		⑥

注. 番号は、図 2-2. 19に対応している。

- 出典：①「京都府自然200選」(京都府ホームページ)
 ②「京都府景観資産登録地区一覧」(京都府ホームページ)
 ③「緑のまちづくり室(主な公園等施設)」(京田辺市ホームページ)
 ④「京田辺市野外活動センター」(京田辺市ホームページ)
 ⑤「きてみてひらかたマップ 枚方八景」(枚方市ホームページ)
 ⑥「野外活動センター」(枚方市ホームページ)
 ⑦「甘南備山マップ」(平成25年、公益社団法人薪甘南備山保存会)
 ⑧「東部公園のドッグラン施設」(枚方市ホームページ)
 ⑨「京田辺市観光パンフレット」(令和元年6月、京田辺市)
 ⑩「ひらたか観光ガイドマップ」(枚方市ホームページ)
 ⑪「生物多様性保全上重要な里地里山」(環境省ホームページ)
 ⑫「景色のきれいな公園」(枚方市ホームページ)
 ⑬「紅葉のきれいな公園」(枚方市ホームページ)
 ⑭「ひらかた散策マップ」(平成23年4月、枚方市)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  人と自然との触れ合いの活動の場

出典：表 2-2.45 に示す。

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

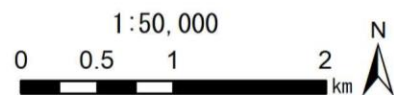


図 2-2.19 人と自然との触れ合いの活動の場位置図

(7) その他の事項

平成27～29年度の京田辺市及び枚方市における典型7公害（大気汚染、騒音、振動、悪臭、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下）に関する公害苦情件数を表 2-2.46に示す。

これにより最近の傾向として平成29年度を見ると、京田辺市では大気汚染（17件）、騒音（13件）、悪臭（10件）の順で、枚方市では騒音（45件）、大気汚染（8件）、振動（5件）の順で公害苦情件数が多く、土壌汚染及び地盤沈下に関する公害苦情の報告はない。

表 2-2.46 公害苦情件数

項目	年度	京田辺市 (件)	枚方市 (件)
大気汚染	平成 27 年度	16	17
	平成 28 年度	16	13
	平成 29 年度	17	8
騒音	平成 27 年度	9	44
	平成 28 年度	7	42
	平成 29 年度	13	45
振動	平成 27 年度	0	6
	平成 28 年度	1	7
	平成 29 年度	1	5
悪臭	平成 27 年度	2	2
	平成 28 年度	3	6
	平成 29 年度	10	4
水質汚濁	平成 27 年度	1	10
	平成 28 年度	2	9
	平成 29 年度	8	4
土壌汚染	平成 27 年度	0	0
	平成 28 年度	0	0
	平成 29 年度	0	0
地盤沈下	平成 27 年度	0	0
	平成 28 年度	0	0
	平成 29 年度	0	0

出典：「平成 28～30 年度版 京都府環境白書」（平成 29～31 年、京都府）

：「平成 28～30 年版 ひらかたの環境（環境白書）」（平成 28～30 年、枚方市）